

文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業

# 2015 春期鳥取大学 Global Gateway プログラム

---

台湾・マレーシア・オーストラリア・アメリカ・鳥取



2015 年度春休み期間を利用し、台湾、マレーシア、オーストラリア、アメリカ、鳥取で語学研修や異文化体験をした 50 人の学生の新しい学びと気づきが詰まった報告書です。

## 目 次

台湾銘傳大学英语研修プログラム .....	3
井上 和 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	4
岡田 遥江 農学部共同獣医学科 (2013年度入学) .....	5
加藤 舜貴 工学部社会開発システム工学科 (2013年度入学) .....	6
佐藤 史歩 医学部生命科学科 (2015年度入学) .....	7
秋元 美穂奈 工学部社会開発システム工学科 (2014年度入学) .....	8
小川 真由 農学部共同獣医学科 (2013年度入学) .....	9
小峯 柊野 医学部医学科 (2014年度入学) .....	10
大津 彬 工学部機械工学科 (2014年度入学) .....	11
池田 千晶 工学部生物応用工学科 (2014年度入学) .....	12
中根 翔子 医学部保健学科 (2015年度入学) .....	13
東谷 洗里 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	14
飛田 永 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	14
富永 貴哉 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	16
武美 伸宗 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	17
平井 遥夏 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	18
妹尾 健治 工学部社会開発システム工学科 (2013年度入学) .....	19
和田 大輝 地域学部地域文化学科 (2014年度入学) .....	20
對馬 孝 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	21
春期マレーシアマラヤ大学英语研修.....	3
大谷 竣亮 医学部生命科学科 (2015年度入学) .....	23
大町 華奈 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	24
磯部 菜月 工学部生物応用工学科 (2013年度入学) .....	25
苅谷 あゆみ 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	26
金村 麻由 工学部物質工学科 (2014年度入学) .....	27
窪田 薫 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	28
坂口 聡 工学部社会開発システム学科 (2014年度入学) .....	29
小島 加奈子 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	30
上村 公志 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	31
成田 一貴 工学部知能情報工学科 (2010年度入学) .....	32
池内 皓大 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	33
湯崎 千聖 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	34
堀江 美晴 地域学部地域文化学科 (2014年度入学) .....	35
網谷 奈美 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	36
杉野 ほなみ 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	37

春期アメリカ英語研修.....	38
岡 茉侑佳 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	39
加納 茉那美 地域学部地域教育学科 (2014年度入学) .....	40
和田守 哲也 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	41
春期オーストラリア英語研修.....	42
景山 和仁 工学部知能情報工学科 (2013年度入学) .....	43
三浦 千明 地域学部地域教育学科 (2014年度入学) .....	44
春名 勇佑 地域学部地域文化学科 (2014年度入学) .....	45
須貝 直美 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	46
多田 慎人 工学部土木工学科 (2014年度入学) .....	47
尾上 佳奈子 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	48
大山短期集中英語研修.....	49
宮地 可奈 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	50
志野 遼太郎 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	51
鈴木 菜月 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学) .....	52
LIU YIMENG 地域学部地域教育学科 (2013年度入学) .....	53
付属資料	

## 台湾銘傳大学英语研修プログラム

国・地域：台湾

研修機関：銘傳大学

参加者数：18名

期間：2016年2月23日（火）～3月17日（木）

担当教員：教育センター 教授 和田 綾子

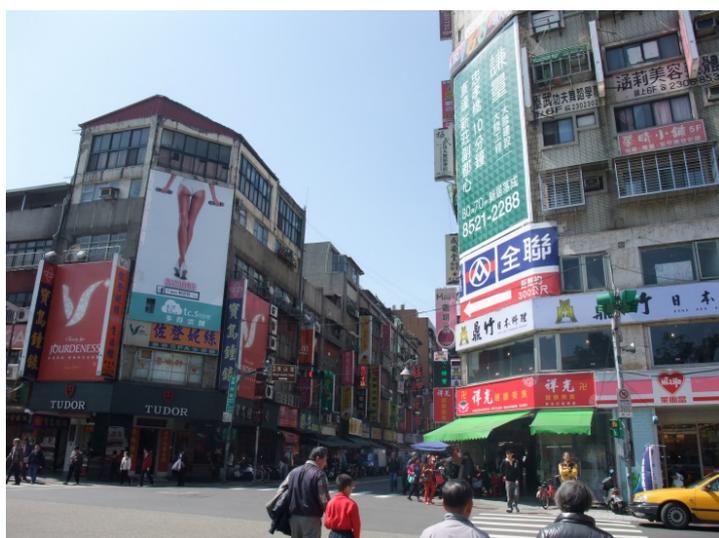
国際交流センター 講師 御館 久里恵

担当職員：国際交流課 課員 藤原 愛恵

プログラム内容：英・米・カナダで学んだ8名の専門講師による英語4技能（読む・書く・聞く・話す）の質の高い集中トレーニングを英語で受けることができます。プレースメントテストによって2クラスに分かれ、きめ細かな指導を受けることが可能です。銘傳大学英语専攻の学生が授業TAとして、日本語専攻の学生が生活TAとしてプログラムに参加し、授業や日々のサポートを得られます。更に、総統府、故宮博物館等を訪れる Cultural Tour では、台湾の歴史・文化に触れることができます。



研修に参加して多くの同年代の海外の友達ができただけでなく、それが自分にとっての大きな出来事だった。英語学科の友達ができただけでなく、自分の英語能力をより高め、よりコミュニケーションを取りたいと強く思った。また日本語学科の友達が日本語を勉強し、夢や目標をもって努力する姿に自分も頑張ろうという気持ちにさせられた。どちらの学科に所属する学生でも日常的に使う中国語と、英語と日本語の3か国語を勉強している生徒が多くいて、その意欲の高さに感銘を受けた。研修に参加した鳥取大学の学生はみな意欲的で、自らの普段の学習も努力しようという気持ちになった。研修に行く前は、学習に対して口だけで行動が伴っていないことが多く、自分でもそれが嫌になっていたが、研修に参加して多くの海外の同年代の学生と関わり合い、努力する姿に非常に大きな刺激を受け、自分の大きなモチベーションを得ることができたことが今回の研修での一番の収穫だと思う。彼らも頑張っているから私も頑張ろう、と思えることは今までとは大きく違う。また自分の将来のために英語を勉強しようという目的のもと今回の研修に参加したが、新たにできた友達とより仲良くなるためというもう一つの語学学習の目的も作ることもできた。今後はより日常的に英語に触れられるように学習の方法を工夫して英語力の向上を図ろうと思っている。また、リスニングやリーディングの能力よりも最も実用的なスピーキングの能力の足りなさを海外との友達とのコミュニケーションのなかで実感したため、今後は正しい発音にも気を使いながらもっと英語を話せるような学習をしたいと思う。今後チャレンジしていきたいこととして、せっかく台湾の友達ができただけだからほんの少しだけでも中国語の勉強をしようと思っていて、友達から中国語のテキストを譲ってくれないか聞いているところである。今までは口だけで実践しなかったことが多いが、今回は少しずつでもまずはやることから始めようと思う。



本研修を通して感じた一番大きな自分自身の変化は、英語の発音を気にするようになったことです。私はこれまで湖山短期集中英語研修や大山短期集中英語研修にも参加し、自分の英語能力を向上させたいと考えながらも、リスニング能力にばかり重きを置いていた気がします。また中学生の時から学校で英語を学習してきましたが、英語の発音方法について細かく習った記憶がありませんし、発音記号の読み方も未だに知りません。よって、アクセントだけは気にしていましたが、聞き取りやすい英語を話そうという意志もほとんどなく、英語を話していました。しかし本研修で何度かプレゼンテーションの機会があり、仲間が発音を気にしながら練習しているのを見て、私も初めて v と b や、l と r の発音の違いを学習しました。そこで初めて、今まで私は何も気にせず v や b を発音していたということに気づきました。それからは少しずつですが、話す時に発音を気にするようになりました。Drama の授業では、英語で演技をする機会をいただいて、とても良い経験になったと感じています。登場人物の気持ちを考えて台詞に抑揚をつけて、台詞を覚えて、身振り手振りを加えるうちに、英語が今までより身近に感じられるようになりました。またこの授業でも先生に何度か foot という単語の発音を注意されたので、意識できるようになりました。今後も英語の発音を練習し、もっと聞き取りやすい英語を話せるようになりたいです。また本研修で、英語を聞き取る能力だけでなく、英語で発信していく能力が必要だと感じました。これからは英語で話す機会を大切にし、自分の思いや言いたいことを伝えるためにも、単語や文法をしっかり学習したいと思います。

台湾では日本語学科の学生が日々の生活を手助けしてくれましたが、彼らの日本語の上手さには驚きました。同時に私も彼らくらい英語を話せるようになりたいと刺激を受けました。また TA さんたちが、私たちに親切にしてくれたのはもちろんですが、学外に出ても日本人だとわかるとすぐに話しかけてくれる人がたくさんいて、親日な国だということを感じました。本研修では英語を学ぶだけでなく、台湾や台湾の人たちについて知ることができ、とても貴重な 24 日間だったと感じています。このようなすばらしい研修に参加できたことに感謝しています。



加藤 舜貴 工学部社会開発システム工学科 (2013年度入学)

私は将来大手自動車メーカーや自動車部品メーカーに就職することを希望していて、最近では海外でも通用するような人材が求められているので、この研修に参加しました。研修を参加することによってこの経験を就職活動でアピールしたり、TOEIC スコアを向上させたいと思ったからです。この研修は非常に満足できる内容でした。授業では常に英語で話すことや書くことが求められ、先生の話す言葉を注意深く聞く力が身についたと思います。分からなくても質問すれば丁寧に教えていただいたので良かったです。特に授業で印象に残っているのはディスカッションで、自分の考えている内容を他の人たちにも分かりやすく話すのは非常に難しかったです。理解してもらえたりコメントについて褒められたりしたときは自信ができました。おかげで自分の今の語学能力や向上心が芽生えてよかったです。授業以外でも銘傳の学生たちと交流できたことが一番思い出になっています。英語 TA と会話することは最初難しかったです。だんだん楽しくなっていました。TA タイムでは授業で出された課題を学生が協力していろいろアドバイスをもらえたり、食事や観光でも私たちが楽しんでもらえるように工夫してもらって助かりました。日本語 TA とも、台湾から見た日本のアニメや文化について聞けてとても面白かったです。TA の方たちは積極的に私たちと会話する姿勢が高かったのですが、台湾では現地の人からも会話してきたので、自分も積極的にコミュニケーションしていこうと決めました。今までは TOEIC スコアや学校の成績を上げるために勉強していましたが、もっといろんな国の人と会話できるようになりたいと思いながら勉強したのは初めての経験です。研修中分からない言葉や会話が成り立たないことがあったとき、日本語 TA や他のメンバーに教えてもらったりすることがよくあり、自分の語学力の限界を感じるが多々あったので、これからは手助けされることのないようもっと勉強しなければならぬと痛感しました。



佐藤 史歩 医学部生命科学科 (2015年度入学)

<研修内容について>約一か月、銘傳大学の経営するホテルに泊まり、英語の授業を受けたり、観光をして楽しんだ。滞在中は常にTAという銘傳大学の学生ボランティアが付き添ってくださった。TAは日本語学科、あるいは英語学科所属の学生だった。日本語学科の学生(日本語TA)は主に食事や観光などの日々の生活サポートをしてくださった。英語学科の学生(英語TA)は授業のサポートをしてくださったり、宿題を手伝ってくださった。とてもフレンドリーな方々だったため、休日に行きたいところを伝えたり授業の質問をするのを、



私たちはためらうことなくすることができた。授業の種類は豊富で、全部で8種類あった。文法やプレゼンテーションだけでなく、ドラマをする授業もあり、楽しんで英語を学ぶことができるカリキュラムが組まれていた。一番感銘を受けたものは、英作文の授業だった。コンマなどの記号の使い方からエッセイの書き方まで教わったり、短い文章に内容をたくさん含む方法を知ることができた。

<学習成果について>英語TAの方々が流ちょうに英語を話すのを聞いたり、刺激的な英語の授業を受けたことで、英語に対する勉強意欲が増した。これからTOFEL、IELTSの勉強を始めたいと思う。特にエッセイの勉強に力を入れたい。今回受けた授業で、エッセイの書き方を習うことができたが、習得はまだできていないからだ。

<海外での経験について>去年の夏はカナダに留学した。そのとき日本とあまりにも生活習慣や人柄が違いすぎて、相当ストレスを感じ、海外で生活することは自分には無理なのではないかと思った。しかし今回台湾で生活してみると、全くストレスを感じず、むしろまた行きたいと思ってしまった。カナダという海外の一国だけでなく、台湾という別の国も知ることで、海外に対する恐怖心が薄らいだ。北米、アジアに行ったので、次はヨーロッパに行ってみたいと思う。とくにイギリスに関心がある。日本と同じ島国だが、どの点で違うのか知りたいと思うからだ。



<今後の進路への影響について>私は医学部生だが、中華圏に滞在したことで、東洋医学、漢方に関心を持ち始めた。勉強を始めてみて面白さを感じることでたら、本格的に知識を習得していきたいと思う。また海外の大学院に進学したいという気持ちも芽生えた。日本の大学と比べて海外の大学には留学生が多いからだ。多様な人々とともに時間を過ごすことで、広い視野を持った人間へと成長できると思う。

今回このプログラムは、私にとって海外の大学を訪れる初めてのプログラムでした。自分の英語力に最初から自信があるわけではなかったのですが、この三週間でどれだけ向上するか楽しみな気持ちもありましたが、不安の気持ちの方が大きかったです。しかし、実際に授業が始まってみると心配や不安になる暇もないくらい新しいことを学ぶのに忙しかったです。英語学科のTAの人たちとのコミュニケーションも最初は質問されたことに答えるのが精一杯でしたが、日が経つにつれて自分からも質問をし、積極的にコミュニケーションをとることができたと思います。それも、銘傳大学の学生が私の下手な英語にも親身に向き合ってくれたからです。また、台湾での生活は日本に似ている部分もありましたが、食や文化について毎日が新鮮で研修中に日本が恋しくなることはなかったです。

銘傳大学でできた友人は、日本語学科・英語学科どちらの学生もととてもいい人ばかりでした。授業で得た知識はもちろんですが、それだけでなく友人たちとの会話で得られた知識もたくさんありました。多くの学生が、夜遅くまで私たちのレポート添削やプレゼンテーションの練習に付き合ってくれました。また、この研修で特に驚いたことは、銘傳大学の学生は学科問わず、言語に関して強い関心があるということです。台湾以外からも学生がきているため、2ヵ国語話することができる学生が多く彼らと交流することで言語学習に対する興味や意欲がわいてきました。

今回の研修で、英語力が向上したと実感できましたが、同時に、さらに英語力を高めていきたいとも感じました。台湾で過ごした3週間はあっという間でした。滞在中は日々の勉強に忙しくしていましたが、終わってみるともっと充実した3週間を送れたのではないかと後悔が残りました。この研修に参加したことで得た知識をさらに伸ばしていくと同時に、自分の弱点を克服していきたいです。そのため、これからも積極的に語学研修に参加していきたいです。



小川 真由 農学部共同獣医学科 (2013 年度入学)

研修が始まってすぐの頃、私は英語で話さなければならないという緊張と、知らない人ばかりの環境という緊張でしんどくなってしまいました。しかし、先生方やTAの方、留学生のメンバーは皆優しく、私がかたうまく話せなくても最後まで話を聞いて理解しようとしてくれました。その結果、普通の授業ではあまり発言しないのですが、今回の実習中は発言することが出来ました。これにはクラスの人数が少なく、先生方も積極的に質問してきてくださるといふことでもあると思います。また、授業後も英語のTAの方々が遅くまでホテルのロビーにいてくれて、話しかけてくれたり、宿題の手伝いをしてくれたりしたので英語を話すということに対する緊張も解けていたと思います。これが最も大きいと思う私の変化です。今後も続けていきたいことは、FacebookやLINEを通じたTAの方々との交流です。以前は、私はこういったSNSをあまり使いませんでした。台湾でたくさんのTAさんたちとフレンドになり、時に日本語で、時に英語で今も連絡を取っています。これは英語に練習にもなり、この交流を長く続けていきたいと思っています。今後チャレンジしたいことは英語で日記をつけることです。これは、一緒に行った鳥取大学の友達がやっており、すごいなと思っていたのですが、台湾でTAの方々に勧められもしました。しかし、台湾では宿題も多く日記に手を出すことが出来ませんでした。なので、これからでもチャレンジしたいと思います。

この研修ですごく良かったと思うのは、留学生とTAがすごく密接に長時間一緒にいることで連帯感や親密感が出来て、英語の学習をすること以外のストレスがすごく少ないという点です。TAの方々はフレンドリーでいつもこちらを気にしてくれて、話しかけてくれました。そのおかげでこちらでも楽しく英語を話すことが出来ました。これからは英語は楽しいものという考えを持って勉強したいと思います。



初めは英語研修に参加するにしても英語圏の国で勉強したい、と思っていました。しかしながらある講義で先生がこの銘傳大学英語研修プログラムを強く勧めてくださいました。費用が手ごろだったこともあり、このプログラムに参加することとなりました。実際に参加してみて、このプログラムは単に英語を勉強するものではないと感じました。このプログラムでは銘傳大学の応用英語学科と応用日本語学科の学生が係ることになっています。それぞれが自分の言語能力のため、世界を広げるため、自らの求めるものを達成するためにプログラムに真剣に向き合っており、とても充実したものであったように思います。

このプログラムを通して、様々なことを感じました。言いたいことを伝えられない口惜しさです。英語 Teaching Assistant の方はとても英語が上手ですが、私の英語がそれに追いつかず、向こうの方の冗談などに返したくても上手に返すことができませんでした。彼らはとても冗談の上手な方です。とても楽しかったです。こんど再会するときには、もっと英語を上達させて、冗談を楽しみたいと思います。向こうの方の第一言語は中国語です。彼らだけで話をしているときは、中国語が使われると全く私は理解できませんでした。とても話に加わりたいと感じました。私たちに気を使って英語や日本語で話してくれることもありましたが、いつか中国語も習得したいと感じました。そのような点では新たな言語の関心も今回のプログラムで得られたものだと思います。

このような気持ちと同時に今回のプログラムで、言語はあくまでツールであるとも感じました。相互の理解の上で必要不可欠ではあります。しかしながら、言語でのコミュニケーションを重要視しすぎるのもよくないと思いました。言葉が通じなくても冗談を伝えられたり、理解を得ることもできました。言葉が伝わるか不安であっても自分から進んでコミュニケーションを取らねばと思いました。

この研修では英語力向上以外にも多くのことを得ることができたと思います。今回得られた気持ちをもとに、より積極的にコミュニケーションをとったり、言語学習を進めていきたいと思います。



初めはものすごく心配でした。他の鳥取大学の学生や銘傳大学のTAの方々と上手くやっているのか、授業についていけるのか、台湾の環境になじめるのかなど、たくさんの不安を抱えていました。

しかし、行ってみるとそんな不安はすぐに消えてしまいました。初日に鳥取大学の学生、銘傳大学のTAの皆さんと仲良くなりました。銘傳大学の学生は活気があり、とても親切で礼儀正しい方ばかりでした。彼らを見て、もっと活発な人間にならなくてはならないと思いました。先生やTAの方とはLINEやFacebookを通じて今でもやり取りをしています。台湾で出会ったできるだけ多くの人とこれからも仲良くしていきたいと思います。

授業に関しては、初めは先生の話すスピードが速く、聞き取れないことや、理解できないことが多々ありました。そのような時は一つずつ丁寧かつゆっくりと先生やTAの方が理解できるまで説明してくれました。1週間ぐらい経ったあたりで、知らずのうちに先生の話すスピードに慣れ、かなり聞き取ることが出来ていました。

そして、台湾の環境にもすぐに慣れました。上着が必要な日もありましたが、日本に比べるとかなり温暖でした。さらに、花粉で悩まされることも全くなかったのが快適に暮らせました。ご飯は安くおいしいものがたくさんありました。大学内、大学周辺に小さなお店が数え切れないほどありました。TAの方たちといろいろなものを食べながら異文化交流をすることが多かったです。

日本と違うところだけでなく、日本と似ているところや同じものに気づくこともできました。日本の車やバイク、様々な日本のメーカーの電化製品を目にすることも多々ありました。工学部機械工学科としてもっと頑張らなくてはならないと思いました。

また、自分の英語力がまだまだであることを強く感じました。これからの課題が山ほど見つかりました。自分で学べることもたくさんあるので、受け身ではなく前向きに英語を勉強していかなければならないと改めて感じました。

毎日が楽しく、驚きと発見が絶えない24日間でした。この研修で知ったこと学んだことは必ず今後に生かせるように頑張りたいです。



池田 千晶 工学部生物応用工学科 (2014年度入学)

この研修に参加して、私は銘傳大学の学生の影響を大きく受けました。特に私が関わった TA はとても親切で、何事に対しても積極的でした。彼らは初対面であっても相手と親しい関係を築こうと努力するし、英語学習においても雑誌やラジオ、映画、テレビ番組など様々な方法で、日頃から英語に触れる環境作りをしていることを知りました。研修に参加する前は、英会話よりも資格や試験のための英語の方が重要だと思っていました。なぜなら、多くの企業や大学は英語能力を何らかの基準で測ろうとするからです。私は会話の方が好きでしたが、自分が将来希望する職業に就きたければ資格のための勉強を優先するしかないと思っていました。ところが、私が銘傳大学で出会った学生は人との交流を心から楽しんでいました。彼らを見てもっと気軽に英語で話したいと思い、そこから私の価値観が少しずつ変化していきました。

大学の授業は少人数で行われたため、英語で発言する機会が沢山ありました。日本語でも説明するのが難しい内容を扱うこともあり、戸惑うことは多かったのですが、その分英語の表現力は向上できたと思います。プレゼンテーションの技能や詩の授業もあり、普段の大学では体験できないような内容は私にとって新鮮でした。中でも市場見学が刺激的で、初めて見る食材に驚かされることもありました。現地の食文化もまた日本とは異なり、甘い物が多く感じました。初めのうちは甘いお茶に慣れませんでしたでしたが、今では懐かしい飲み物です。私は飲茶がとても好きだったので、日本よりも安く美味しい物が食べられるのは嬉しかったです。食事は TA の学生と一緒にいくことが多かったのですが、覚えたての中国語を使って注文してみたりもしました。中国語は専攻していなかったのですが、独学で練習していたこともあり、少しでも使う機会があつて良かったです。

この研修では色々なことを学ぶことができ、充実した3週間だったと思います。この経験を活かし、今後の生活や学習に役立てていきたいです。銘傳大学では、趣味が同じなどの共通点を持つ友達と知り合うことができました。これからも彼らとの関係を大切にし、継続して英語も練習していきたいと思います。



私がこの研修の中で意識したことは、「何事にも関心を持ち、自ら行動し、様々なことに挑戦すること」である。そして、この心がけが私を更に成長させることに繋がった。私が参加した研修は台湾銘傳大学での英語研修である。

その初期に私は、自らの英語スキルが向上しさえすれば、大体の目的が達成すると考えていた。しかし、研修後の今では、英語を更に勉強したい気持ちはもちろんのこと、中国語も学びたいと思う自分へと変化している。台湾の共通語は英語ではなく中国語である。地域住民、普段は英語や日本語で私たちのサポートをしてくれた銘傳大の学生も、日常では中国語を話すのだ。食堂や観光地などではお店の方の中国語が理解できず、困惑した場



面が何度もあった。中でも、私が中国語を少しでも理解でき、使えるようになりたいと強く思うようになったのは、台湾の地下鉄内でのある経験がきっかけとなった。そこで私は現地の小さい子供連れの家族と出会い、子供をあやしたり、車両が大きく揺れる際に支えたりした。別れするとき、その両親から「謝謝」といわれ、感謝されたが、私は「どういたしまして」の中国語を知らなかった。言葉が通じなくても互いに笑顔になれ、良い時間を過ごすことができたが、そこに少しの会話ができただけならどんなにその時間が心豊かなものになるだろうか、と思った。

その日から私は、銘傳大の学生に簡単な中国語を習い、日常生活で使ってみることにした。すると、それを聞いた現地の学生は驚くとともに笑顔になり、正しい発音や他の言葉などを教えてくれた。私は、こうして初めて触れる言語で意思疎通することの面白さや中国語に挑戦することで会話やより良いコミュニケーションに繋がることの喜びを覚えた。これは、私が台湾にきて、現地の方につたない日本語で話しかけられた時の驚きと喜びに似ていると感じた。相手に関心を持ち、行動してみることが、良い人間関係の構築に繋がるとともに、自分自身を成長させることになるのだと気づいた経験であった。

この研修で、何事にも関心を持ち、自ら行動し、挑戦することの大切さに気付いた。私は、将来 JICA などに所属する看護職として、世界各国でより多くの人を幸せにしたいと考えている。この研修でつけた英語力をさらに伸ばすとともに、台湾の方と関わり得た、言語、非言語的な意思疎通の力を生かしていきたい。



私は、この台湾銘傳大学英语研修に参加して良かったと思っています。新しい友人を得たことや、新しい考え方を身につけたこと、精神的にも成長することができたことにより人としてまた一歩成長することが出来ました。

まず、この研修に参加した仲間の中には以前からの知り合いもいましたが、それほど親しくありませんでした。それこそ見かけたら軽く会釈する程度で、よしんば話しかけたとしてもおどおどしてしまい、ぎこちない感じでした。それが、この研修の終わる頃には互いに冗談を言い合う中になっており、いまでも連絡を取り合う中となりました。また、台湾で TA として関わりを持った人たちとも友人となることができ、お別れの日には互いに涙流しながらまたどこかで再会することを約束し、たまには近況報告をする仲となりました。人とコミュニケーションをとることが苦手な自分がこれほど多くの友人を作ることができたのは、この研修であるからのように思います。

次に、研修期間中に授業で学んだことについて述べます。特に印象に残ったのは、Eva Salazar 先生の Cross-cultural Understanding Oral Discussing on Selected Topics と Justin Hewitson 先生の Writing Skills です。Eva 先生の授業では、食、健康問題、家族、そして性的少数派について与えられた情報も参考にしながら自分の意見を述べていきました。特に最後の性的少数派について考えるところでは、話題が難しく疲れたという感想を持っている人もいましたが、普段考えないようなことについて考えるいい機会になりました。Hewitson 先生はライティングの要点とタブーについて、また、どうすればわかりやすい文章になるのかについて実際に添削しながら教えてくれました。それは、見ている人が思わず、魔法のようだと形容するほどでした。この授業で得たライティングのノウハウはこれから先、日本語・英語問わずに文章を書く際にも活用していきたいです。

最後に、自分個人の内面の変化について述べます。この研修で知り合った多くの人から一番変わったといってもらい、特に Eva 先生の授業で自分の意見を述べる際に緊張して中々はっきりと発言できなかったのに最後の授業では堂々と発言していたこと、三月の初めにグループで行なったプレゼンテーションと最後のプレゼンテーションとの比較、そして、その後に行なったドラマの演技を見て感じたと言ってもらいました。台湾で英語研修という違和感を覚える研修ではありましたが、上記のことからこの研修に参加して本当によかったと思います。



この研修を通じての成長したことは、まず、プログラム内の授業によって英語での読み書きや使用できる語彙の増加などの技能が上達したことだ。授業時間外でも応用英語学科の生徒であるTAたちと英語でコミュニケーションをとるため、参加前は苦手意識を覚えていた会話などの経験も積み、それらを克服することができた。当研修の特徴でもある少人数クラスでの授業により、英語にしても日本語にしても講義内でより積極的に発言をすることができるようになった。さらに研修中に自分の夢に向かって一生懸命に努力している同じ日本人学生や現地のTAらの姿勢を見て影響を受けて、帰国後も学習意欲が向上して英語を学習する習慣がついた。



また、英語の学習だけではなく様々な体験をすることができた。まず一つ目は異文化理解への一步を踏み出せたことである。これまでは異文化理解への大切さは理解していても実際にそれを体験、実践することは少なかった。しかし台湾を訪れて言語や食事、マナーなど多くの文化の違いを目にしてそれらを受け入れようとする、貴重な経験ができた。また、初めて会う人が多い環境の中でコミュニケーション能力が以前よりも向上したと自信が持てる。本研修を通じて鳥取大学が標榜する人間力の向上、ひいてはこれからのグローバル社会で活躍できるグローバル人材へと確実に近づくことができたと確信している。

そして、これからの目標を具体的に定めることができるようになった。本研修へ参加する以前から海外への留学には漠然と憧れをもっていたが、実際に何をすべきか等は考えておらず、現実味をおびていなかった。本研修は得ることが多く非常に充実していた一方で、うまくいかなかったことや若干の挫折など、多くの失敗も体験した。これらからも見返して反省をすることで多くのことを学ぶことができた。今回得たものから自分の理想とする留学には何が必要なのか、どのような準備をするべきなのか具体的に見ることができるようになった。帰国後の指針、目標もある程度決定することができた。本研修は三週間あまりと短いながら自らの血肉となるようなものを多く学ぶことができ非常に有意義で密度の濃いものであった。ぜひ来年度以降もたくさんの生徒、特に一年生に参加してほしいと思う。



富永 貴哉 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

今回私は銘傳大学英语研修プログラムに参加しました。私たちの英語学習のためにこの研修に関わってくださった職員の方々、銘傳大学の方々、そして3週間以上共に過ごした参加者の方々に感謝します。この研修の中でたくさんの事を学ぶことができ、大変嬉しく思います。

台湾で研修が始まって間もないころ、私の頭は不安と緊張でいっぱいでした。海外に行くことが初めてなうえに、英語の授業についていくのに必死だったからです。さらに私はAグループだったのですが、周りの参加者達のレベルの高さや、銘傳大学の英語学科の学生達の英語力の高さに圧倒され、自信を失いかけた時がありました。この時は英語を話すことにためらっていました。しかし、あるTAさんにそれを伝えたところ、彼女から励まされ、また周りの参加者達が間違いなど気にせず楽しそうに英語を話している姿を見て、「僕も失敗を気にせず、もっとぶつかってみよう」と思うようになりました。それからは授業にもより積極的に参加できるようになり、英語を話すことを楽しんでいる自分がいることに気づきました。結果的に自分も少し積極的になれたのではないかと考えています。

この研修では私が今まで日本で受けてきた授業からは考えられない、ハイレベルかつ新しい授業を体験できました。例えば科学や現代社会、同性愛に関する問題について英語で議論したり、詩を読んだり演劇をしてみたり、どれも日本では経験したことのないものでした。どの授業も楽しく受けることができたのですが、私はこれらの授業から自分の英語力についていくつか改善したい事を見つけました。1つ目はリスニング力です。研修が始まるまで事前に勉強はしたつもりですが、それでも先生やTAさんが話したことを完全に理解できないことが度々あったからです。2つ目はライティング力です。英語での句読法や文章の組み立て方などは授業では理解できたものの、まだ使いこなせていないので、今後の大学生活で少しずつ練習していこうと考えています。

今回の研修を終えた今、やりたいことが色々出てきました。ライティング力やリーディング力の向上のため、また自信の興味のために「National Geographic」の英語版を定期購読してみようかと考えています。また何らかの機会英語が母国語である方と継続的に話してみたいと思っています。



武美 伸宗 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

現在、世界の人口は約 73 億人、二人の人が出会う確率は貴重なものです。一度交差した 2 つの線が再び別れてその後、再び交わることは二度とないかもしれず、仮に交わったならば、それは奇跡です。日本人はこの出会いの奇跡を一期一会、または縁と呼びます。台湾と日本は縁深い関係にあり、銘傳大学と鳥取大学も過去 4 回に渡る交流により、多くの縁を紡いできました。

この研修に私が参加できたことも一つの縁であり、そこで得た「授業を通して見えてきた自分の目標」、「夢に向かって前進する刺激的な仲間や銘傳大学の TA さん達」、「痛感したことと今後の課題」は今後の私の大きな糧となります。

授業では、自分の専攻や自分自身について聞かれ、英語で伝えることに苦労しました。最も私に影響を与えた授業はエッセイの授業です。エッセイは文章の構成だけでなく、無駄を省き simple かつ clear にまとめることを重視します。物事を複雑に考えず、シンプル且つ単純に捉えること、身边を簡潔にすること。この授業で体感した単純明快の考え方は今後の生き方の指針です。

銘傳大学で授業や生活面でサポートをしていただいた TA の方々は積極的で、暖かく、彼らと夜遅くまで話をし、多くの TA さんや共に参加した鳥取大学の仲間が夢を持ち、努力を重ねていることに気付きました。さらに研修を通して私も含めて消極的だった仲間たちが積極的な姿勢を見せるようになりました。

初めて海外に出て英語だけでなく多くの言語を操る能力があることがどれだけ大切かを肌で感じました。これは実際に行って自分で体感しなければなかなかわからないことです。

また、自分の強みや自分の性格についてよく知り、相手に自分を表現することも大切です。

今後は、語学学習はもちろん、自分の専攻分野や特技、趣味を相手にわかりやすく簡潔に伝えられるよう努力をしていきます。

この 3 週間で、私は語学を学ぶ大切さはもちろん、自分の行動指針を定め、積極性を身につけ、夢を持ち、学びへの意識を一変させました。私はこの研修に参加できて本当によかったと心の底から思います。先生方や一緒に台湾に行った仲間達、TA さん達も皆素晴らしい人達でした。もう全員が揃うことはありませんが、この貴重な縁に感謝したいです。海外に向けての最初の大きな一歩をかけたがえのない仲間たちのおかげで踏み出せたことを嬉しく思います。

この 3 週間で、私は語学を学ぶ大切さはもちろん、自分の行動指針を定め、積極性を身につけ、夢を持ち、学びへの意識を一変させました。私はこの研修に参加できて本当によかったと心の底から思います。先生方や一緒に台湾に行った仲間達、TA さん達も皆素晴らしい人達でした。もう全員が揃うことはありませんが、この貴重な縁に感謝したいです。海外に向けての最初の大きな一歩をかけたがえのない仲間たちのおかげで踏み出せたことを嬉しく思います。



平井 遥夏 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学)

はじめに、今回この研修に参加させていただき本当にありがとうございました。一年間この研修に興味はあったものの、TOEIC の点数があまり良くなかったためにぎりぎりまで応募を悩んでいたのですが、貴重なチャンスを逃したくなく思い切って応募しました。この研修に参加できたことで長期休暇をとっても有意義に過ごすことが出来ました。

授業は全て英語で行われたのですが、はじめは先生の話すスピードやそれぞれの発音についていくことが出来ず理解するのに必死でした。しかし3、4日すると聞き続けることにもすっかり慣れ、完全でなくとも聞き取れるようになりました。日本の授業と違うと思ったところは多くの授業で発言する機会があったところです。私たちの意見で授業が進んで行くのはおもしろかったです。中には辞書禁止の授業があり、言いたいことをはっきり伝えるのに苦労しましたが表現の幅は広がったように感じました。どの授業も机を円形にして受け、先生もアットホームな雰囲気だったので楽しかったです。

TA さんには研修中ずっとお世話になりました。授業後には TA time があり、英語学科の TA さんとおしゃべりしたり宿題のエッセイやプレゼンを見てもらったりしました。この時に日本人だけで宿題をする時間と TA time の時間の区別があれば、もっと TA time を会話や質問の時間にできたと思います。日本語学科の TA さんは毎日ご飯に連れて行ってくれ、ホテルに戻ってからも TA さんたちとの会話が尽きることがありませんでした。TA さんはネイティブではありませんが流暢に英語を話す人が多く、日本との英語教育の違いを目にしました。積極的な会話の練習が必要と感じました。週末もたくさんの観光名所へ案内してくれ、忙しくも飽きることなく過ごせました。

この研修は私にとって語学を勉強する大きなモチベーションにつながりました。TA さんと連絡をとるには英語が必須なので自然と英語に触れようという気にさせてくれます。また、現地の人に第二外国語として一年間習った中国語が通じたのが嬉しく更に学んでみたいと思いました。これからの留学などについてはまだ考えている途中ですが、もっと自信をもって話せるようになりたく研修で得た経験や勉強法を活かして継続して語学を勉強していくこと、TA さんに上達した姿を見せられるようにするのが今の目標です。



今回の研修は学習面と生活面のどちらにおいても素晴らしいものでしたが、台湾での生活は僕の想像を遥かに超える快適なものだったので、この報告書では生活面のことに中心に書きます。

昨年の夏に学科のプログラムで初めて海外に英語研修で行き、それが自分の中で新鮮であり衝撃的で、機会があれば是非もう 1 度大学生の間に海外へ行きたいと思っていました。ちょうどその時、一緒に行ったメンバーの中に昨年のこの銘傳大学のプログラムに参加した学生がおり、「このプログラムはとても良いから興味があれば参加してみたら」と言われ、参加を決めました。必修科目としての英語学習は 2 年生で終わりましたが、私は進学を希望しており、その際に TOIEC のスコアシートの提出が必要なので、3 年生になっても個人的に英語の勉強を続けていました。ですが、個人で行う学習だと、どうしてもリスニングとリーディング中心になってしまうので、今回のプログラムではスピーキング能力を鍛える良い機会だとも考えていました。しかし、3 週間というある程度の期間を海外で、しかも常に集団生活で過ごすことはもちろん初めての経験なので期待も当然ありましたがそれ以上にいつ「早く日本に帰りたい」と思うのではないのかという不安の方が出発前は大きかったです。だが、台湾で過ごしていくうちに私の不安はなくなっていきました。なぜかという銘傳大学の学生の皆さんはとても優しく、親切だったからです。積極的に声をかけてもらったのですぐに打ち解けることも出来ました。特に毎日の食事の時間はとても楽しかったです。私の班はほぼ毎日、英語学科と日本語学科の学生が来てくれたので、英語、中国語と日本語が飛び交う傍から見れば少し奇妙な、でも私からすれば新鮮で楽しく、さらに自分の語学力の向上にも繋がる経験でした。やがて私の不安は「この素晴らしい時間はもうすぐ終わってしまう」というものに変ってしまいました。

日本に帰国し、思い返してみると 3 週間があつという間に過ぎたと思います。また、参加する前に友人が私に言ってくれた言葉の意味が身をもって体感することが出来ました。本当に貴重な経験をすることが出来ました。最後に、来年以降も多くの学生がこの素晴らしいプログラムに参加してほしいと私は強く思います。



二年生の冬に英語力の向上のために外国での研修プログラムに参加しようと決め、最初は地域学部にあるフィールド研修の北米プログラムに参加しようと考えていました。しかし、ある先生から英語をとことん勉強したいなら銘傳大学英語研修プログラムに行くのがよいと勧められ、台湾に行くことを決めました。研修を終えての感想は、率直に「参加してよかった」です。この研修では英語研修のことだけを考えて参加を始めたのですが、英語力向上だけでなく、この研修でしかできない様々な経験をすることができました。現地では生活 TA として、日本語学科の学生、そして英語 TA として英語学科の学生と日々の生活を送ることになります。この点は、他の留学プログラムとは異なっている点ではないでしょうか。将来、日本語教師になりたいと思っている私としては、日本語学科の学生と交流できる点はとてもうれしいものでした。また、日本語学科の日本人教授とお話をする機会を生活 TA が私のために設けてくれ、よい経験ができました。英語 TA とも日々の宿題や夜の会話、ゲームなど英語で会話し、交流することでリスニング力やスピーキング力が向上するだけでなく、素晴らしい友達になることができました。休日にはこのような TA が台湾の観光地に連れて行ってってくれ、現地の様子や有名な場所、歴史的なことが学べる場所など行くことができ、一生忘れられない素晴らしい体験になりました。そして、英語に関していえば、日本で英語の授業を受け、英語で友人とペアワークをしたり、発表をしたりするとき、発音よく話すことが恥ずかしいと考えることがあると思います。そのような文化は本当にばかばかしいものだと、研修に行くことで痛感します。発音よく話さなければ伝わらないのが当たり前なのです。研修に行くことで英語に対する姿勢が変わります。私は様々な思い出を作ることができましたし、英語に対する姿勢が変わりました。もちろん英語能力も向上したことが実感できます。今でも台湾の学生と英語で SNS を使って交流し続けています。この経験を大事にして、これからも研修に参加したり、外国の方と交流しながら、自分の夢に向かっていきたいです。



まず、本当にこの研修に参加して良かった。授業、MCU の TA の学生をはじめすべてのもの、人がとてもエキサイティングであった。まず授業では、日本では受けることのできない学生主体の授業を体験することができた。一人ひとりに意見を求められることは当たり前で、周りの意見を聞きながら、自分の意見を話すことに楽しさを感じることができた。発言する際には、できるだけ polite な英語を話すように心がけた。私は、この研修を通して、英語を話すことへの更なる自信を得ることができた。一方で、自分の発音の悪さにも気づかされた。特に、日本人にとって難しいとされる r と l の発音にはたびたび悩まされた。考えたことを話すことにもどかしさを感じることはほとんどなかったが、発音の不一致で伝わらないことが時々あった。帰国後は、発音に重点を置いて、よりクリアな英語をしゃべることができるようになりたいと思う。

台湾での生活を通して、改めて日本人の環境や自然への意識の高さを感じた。台湾では、分別の概念はあまりなく、大学内のゴミ箱も一種類のみという状況であった。毎日夜になると、「エリーゼのために」の曲と共にゴミ収集車が現れ、住民がゴミやゴミ箱を担いで全力疾走で駆け寄ってくる。この光景を見たとき、日本人はエコフレンドリーだなと感じた。日本では多いところで 20 種類以上に分別してゴミは回収される。日本と台湾には環境に対する政策に大きな違いがあると感じた。私は農学を学んでいる身であり、環境にとっても強い関心を持っている。今回の研修は、これらの問題について考えるいい機会でもあった。

今回の研修では英語の勉強に加えて、終始台湾の文化を満喫することができた。これは TA の皆が様々な場所に連れていってくれたおかげである。竜山寺や九份をはじめ各地を訪れることはとても貴重な体験であった。食事も、毎日夕食は学外で食べていたため、台湾の食事をとても堪能できた。初めの数日はなれないこともあったが数日後には台湾の食事が好きになっていた。

これらの経験を糧に、次の目標である長期留学に向けて、これからもさらに英語力を高め、さらに異文化理解力も高めていけるようにサークルなどを通して精力的に活動していきたい。



春期マレーシアマラヤ大学英语研修

国・地域：マレーシア

研修機関：マラヤ大学

参加者数：16名

期間：2016年2月12日（金）～3月6日（日）

担当教員：国際交流センター 教授 池田 玲子

国際交流センター 准教授 竹田 洋志

教育センター 准教授 小林 昌博内容

担当コーディネーター：グローバル人材育成推進室 特命コーディネーター 村島 奈月

プログラム内容:首都クアラルンプールに位置するマレーシアで最も古い権威あるマラヤ大学で、英語の授業（語彙、聴解、文法、会話、演説法、作文）を学ぶ他、英語で行われる Outdoor Class Activityに参加し、マレーシアの自然・歴史・文化に触れることが出来ます。更に、2日間のホームステイでは、マレーシアの家庭の雰囲気を経験することが出来ます。研修期間中、マラヤ大学の学生がバディとして、学生1人ずつにつき、参加学生の授業や生活をサポートしてくれます。



大谷 峻亮 医学部生命科学科 (2015年度入学)

マレーシアに行こうとまず思ったのは海外の学生はどのような感じで、どのような志を持っているのか気になって行ってみたいと思ったからです。実際に行ってみて、彼らはとても陽気でした。質問をしてみると生活の中で苦しいことはたくさんあるけどそのたびに愚痴をいってたらきりがなし、雰囲気も悪くなるからそれだったら笑っていたほうが周りも明るくなるし、つらいことがあったら教えてと答えてくれました。また、マラヤ大学の生活のごく一部しか体験できていませんが、毎日が厳しいのにさらに自分たちの講義にも出てくれて、下準備までしてくれて、プレゼンも当然のようにこなす姿を見てすごいと思いました。この研修を通して主に二つのことを大切にしたいと思いました。一つ目は英語での会話力です。講義内でのプレゼンの準備で、僕たちは事前に英語の文章を考え、そこから文章を暗記しないといけないとっていたのですが、バディの学生たちは、英語は日本人と同じく第二言語なのに原稿など必要とせず日常会話のように発表できるのです。ぼくのバディはいつも自信を持ってと言ってくれていましたが、なんでそんなに自信があるのかと聞くと、「自信は自分を信じている証で、まあやればできるってことさ」と言っていました。なんとなくわかった気がします。これからも英語を話す力を上げていきたいと思います。二つ目は自己表現力です。研修の中の一つのイベントとしてストーリーテリングがあり、自分は本番では選ばれなかったのですが、練習の時に教えてもらったのは、ただ話すのではなく内容を伝えたいのだからゆっくりかつ聞き手をよりひきつけるために身振り手振りをしろということです。すごく基本的なことなのですが恥ずかしくてためらいました。これはこのイベントだけに限らず就職活動やその後も必要なスキルだと後々考えました。ためらってばかりでは何もつかめない、つかみかかったら自分を表現し、アピールすることが大切だと確信しました。このほかには色々な場所に行き、貴重な体験をできてこの研修を用意してもらったことに感謝したいです。



事前研修では宗教、注意事項やマナーなど日本と異なった文化、習慣を受け入れられるかとても不安でした。しかし、実際にマレーシアに行ってみると自分が想像していたほど理解しにくいものではありませんでした。一番心配だった宗教に関しても、絶対に左手を使ってはいけないと思いついていましたが、極力左手を使わないという程度でした。イスラム教の人と過ごして、礼拝をみたり、ヒジャブの付け方を見たりと貴重な体験をしました。バディとの生活では、様々なカルチャーショックを感じました。例えば、マレーシアに着いて初めに感じたカルチャーショックは現地の人のテンションの高さです。今まで海外に行ったことがありましたが、現地の同級生ぐらいの人とは交流したことがなかったので、こんなにもテンションが高いということは想像もしていませんでした。しかし、3週間一緒に過ごしてこのテンションは、ただクレイジーなのではなく、人生を楽しんでいるということが分かりました。日本人はストレス世界の中で生きていて、人生を楽しんでいないのではないかと思うようになりました。英語の授業では、文法、リーディング、ライティングやスピーキングを学びました。この中で最も刺激を受けた授業はスピーキングです。なぜなら、授業中にいきなり自分たちでストーリーを考えて劇をしたり、英語の歌を歌ったりしたからです。スピーキングの先生は表情豊かで、プラスの言葉を発音するときは笑顔で発音し、マイナスの言葉のときは怖い顔で、言葉だけでなく表情も大切だということ学びました。自分も英語を話すときに顔の表情筋が動いているか鏡で確認してみましたが、全く動いていなくて、口も全然開いていなかったもので、自分の最大の課題だと思いました。英語に限らず、日本語でも意識しようと思います。発音以外にもリアクションするときに使う単語をたくさん習ったので、発音練習と表情筋を動かす練習をしながら会話で使えるようにしたいと思います。他の授業で教わった英語の勉強方法として、英語で日記を書いたり、英語の曲を聞いたり、英字新聞を読んだりと様々ありますが、私は音楽が好きなので英語の曲を毎日聞いて、好きな曲を見つけて歌えるようにしたいと思います。今回のプログラムを通して、自分の欠点や課題を見つけることができました。また、日本と異なった環境での生活で経験した様々なカルチャーショックに耐える忍耐力を培うことができました。行く前は、3週間はとても長いと思っていましたが、あっという間に過ぎてしまいました。しかし、この3週間は内容の濃い充実したものとなり、経験したことをこれからの人生に活かしていきたいと思っています。



私はこの研修前、とても緊張していました。食べ物のこと、宗教のこと、習慣のこと、英語の勉強のこと、いろんなことを不安に思っていました。しかし、その不安は日に日に薄れていき、自信に変わっていったのです。リーディング、ライティング、スピーキング、グラマー、マレーシアの歴史の授業のうち2つを午前中に、午後からはマレーシアの伝統的なダンスや音楽を学んだり、様々な観光名所に行ったりしました。慣れるまでは授業も理解することが大変で辛くて、体力的にすごく疲れましたが、この研修を選んだ理由であるバディ制度が私の頑張れる源となりました。バディはいつもそばにいてくれて、授業でわからないところがあっても教えてくれたり、マレーシアの色々な料理を作ってくれたりしました。伝統的な衣装を着たり、宗教の重要な場所を訪れたり、マレーシアについてもよく学ぶことができました。毎日が楽しくてあっという間に過ぎていきました。

私はあまり人前に出て話したりすることが得意ではありませんでした。マラヤ大学の授業はすごくにぎやかで常に誰かしら意見を述べているような状況でした。日本との授業の形式と大きく異なるので、最初は抵抗がありましたが話し合ったり、劇をしたり、プレゼンをしたりしてだんだんみんなの前で話すことが苦にならなくなりました。最後の週ではディベートを行い、ますます自分に自信がつけました。

マレーシアで生活していくうちにだんだんバディとも距離が縮まっていきました。研修の最終日は彼女と私で大泣きでした。また、空港でも離れがたく大泣きしました。この研修でどれだけ楽しかったか、彼女の存在がどれだけ私に大きな影響を与えたかよくわかりました。

この経験を通じて、私はもっと活動の幅を広げたいと思いました。自分がいかに狭い、小さい世界で過ごしてきたかを改めて思い知りました。様々な文化があって、宗教があって、人種があって、言葉が通じなくても伝えたいという思いがあればより学ぼうと思えるし会話ができるのだと学びました。人見知りだからと、殻に閉じこもることをやめて、積極的に何にでも取り組みたいと思いました。



私は数あるプログラムの中からこのプログラムを選んで本当によかったなと思っています。その理由の一つ目は、24 時間ローカルバディと一緒に過ごすことができるということです。仲良くなるのはもちろん、いつでも英語の練習をすることができ、さらに授業のわからないところや生活面で不安なところを助けてもらうことができます。二つ目に、多くの観光ができるということです。放課後のスクールトリップや課外活動やホームステイなどを通して、マレーシア文化を体験でき、他宗教や価値観の違いなどを理解することの手助けとなりました。また、たくさんのお会いやカルチャーショックがあり、とてもいい経験になりました。三つ目に、マレーシア人はとても優しく、フレンドリーで、温かい人たちだということです。いろいろな面で気遣いができ、親切でユーモアにあふれていました。一緒にいるだけで、幸せになれるような人ばかりだったので、精神的につらいことや体力的に苦しいことがあっても乗り越えることができました。この留学を通して、私は自分の考え方や価値観が大きく変わりました。そして、もっと勉強したいし、自分はやればできるし頑張れるのだという思いが強くなりました。間違えることや失敗することの大切さの本当の意味を理解できるようになったことは、今後の人生においても大きな意味を持つと思います。また海の向こうに友達がいて、自分の帰る場所があり、本当の家族のようにいつも応援してくれていることは大きな心の支えになると思います。留学先での三週間は、長い人生の一瞬にしかすぎませんが、つらかったし、苦しかったし、大変でした。ですが、その分楽しいこともたくさんあり、とても幸せで、永遠に続いたらいいのにと今でも思います。とても密度の濃い三週間で、心身ともに鍛えられて成長できるこのプログラムに参加できたことに感謝しています。そして、より多くの方が素晴らしい体験や経験をされることを願っています。



金村 麻由 工学部物質工学科 (2014年度入学)

クアラルンプールは思っていたよりもずっと発展した都市で、発展途上国ならではの愛国心にあふれた街並みから、大きなエネルギーを感じました。バディ達は何をする時も力になってくれて、私たちのつたない英語も一生懸命に聞いて理解してくれました。授業の時や食事時の会話など、バディ達のマシンガントークに圧倒される毎日でしたが、そのおかげでリスニングの力が確実に向上したと実感します。話さなければならない状況、理解しなければならない状況に追いやられることもあり、そのたびに少しずつ自分のスキルの向上を感じることができました。勿論、バディや周りの友達の助けがあつてこそその事です。日本の学生生活ではみんなで何かの議題について考えたり議論する機会がなかったので、バディや他の大学の仲間と英語で何かを考えたり、意見を出し合ったり、反論をしたりというアクティビティは大変新鮮で思い出深い活動の一つです。バディ達はどんなトピックに対しても真剣に考え、とても良い意見を共有してくれました。時間を決して無駄にせず、彼らは日頃から様々なことを考えていました。それ故に、彼らはいつでも自分の意見をいうことができるのだと思います。私はこのプログラムに参加して、今までの学生生活で無駄にしてきた時間を反省すると同時に、残り2年をいかに有意義に送るかを考える機会になりました。留学前は、外国人の知り合いなど居らず、単調な生活に満足しようとしていました。しかし、今回留学を経験し、たくさんの友人が増えました。生活は自分の興味や人脈を広げることでより楽しくなることを学びました。せっかく向上した英語力ですので、なるべく維持、向上できるようにこれからも勉強し続けたいと思います。

マレーシアは歴史的背景より、多くの文化が混在する国でした。経済の面でもまた、多くの先進国をはじめとする外資系企業が参入することで成り立っている部分がありました。しかし、いつまでも外資系の企業がマレーシアを支えられる保証はなく、マレーシアオリジナルの支柱を築いていかなければなりません。私たちが出会ったマラヤ大学の仲間たちはきっとその支柱の中心になるのではないのでしょうか。このご縁に深く感謝し、これからも鳥取大学とマラヤ大学が素晴らしい関係を築いていけるように尽力したいと思います。大変貴重な経験ができてとても幸せです。テリマカシ。



今回このプログラムに参加したのは友達に勧められたからです。友達に勧められて募集の紙を見に行くとなんともう締め切りが終わっていました。追加募集があったみたいなので親も許してくれるだろうとすぐに応募しました。

僕は旅行が好きで計画を立てて行くことをしていました。プログラムに参加するのは自分の好きなところを回ることが出来ず、制限がかかってしまい楽しむことが出来ないと思っていたので、学校のプログラムというのに抵抗がありましたが、友達は楽しいと言っているし英語の勉強になると思ったので行くことを決めました。行くことが出来てとても良かったと思います。

英語力に関しては、元々大学ではあまり英語をやっていなかったので初め単語も構文も頭に浮かぶことがなく困り、誰よりも英語が出来なかったのが悔しくてマレーシアについてから文法の復習や動画を見て英語を学びました。現地の人々は皆優しく、早くて聞き取ることが出来ない時がしばしばありましたが何度も何度も言い直してくれ僕にも分かるように話してくれました。プログラムの終盤にはやっと自分の意見などを言うことが出来るようになってきたのですが、3週間という短い時間の中では本当の英語力は付かないと実感しました。

マレーシア研修の最も良い所は、バディ制度だと思います。寮では日本人2人マラヤ大学の2人の4人で住み、授業も一緒に受けました。マラヤ大学の学生が様々な場所に連れて行ってくれたので観光も出来ました。料理はとてもスパイシーですがとても美味しく、宗教や文化について詳しくなりました。一緒に遊んでいて一番楽しかったのは、「international jinrou」です。日本で有名な人狼というゲームですがマレーシアではやったことがなく、英語で説明をして、英語で遊びました。自分たちが一から説明したゲームを遊んでもらって英語が通じて楽しんでもらうことが出来、自信にもなりました。

3週間という時間はあっという間で英語力が付いたかは分かりませんが、またマレーシアに行きたい、今回上手く話せなくて悔しい思いをしたので今度は上手く話したいと意識が高まりました。英語の必要性が分かった研修になったと思います。

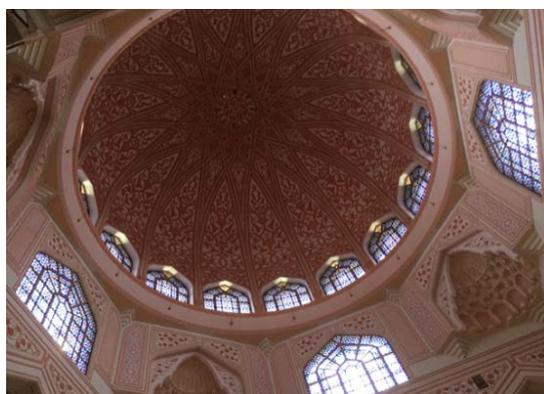


研修前と研修後を比べて、自分自身の変化がいくつかありました。一番の自分自身の変化としては、英語に対する意識がかなり変わったことです。マラヤ大学の学生と英語で会話をしたとき、言いたいことが英語で思い浮かばず、悔しい思いをしました。そのとき、もっと英語の勉強を一生懸命しなければならないという意識に変わりました。研修前は、英語を話せるようになりたい、TOEIC の点数を上げたいなどの目標があったのですが、英語の勉強をする意欲が少し欠けていました。今回の研修は私に良い刺激を与える研修でした。

マラヤ大学の学生とたくさん話す機会があり、とても英語の勉強になりました。話すことは英語のスピーキング能力が向上するので、日本でも英語を使用したいと考えています。なかなか日本では英語を話す機会はありませんが、鳥取大学にいる留学生と話す機会を作りたいと考えています。今回の研修で英語に対する思いが強まり、英語関連の行事に積極的に参加したいです。そのような行事で、また多くの海外の友達を作りたいと考えています。また、今回の研修で友達になったマラヤ大学の学生とは SNS を通して連絡を取り、ライティング能力を向上させたいです。研修が終わっても英語を使う機会を増やし、能力が衰えないようにしたいです。

マラヤ大学の学生と会話したとき、時々相手の言っていることが理解できませんでした。そのときに、私は聞き返すことができませんでした。聞き返せば理解できるとは限りませんが、この状態だと自分が困ることになります。英語力とは関係なしに、相手の言っていることを理解することが大事であり、改善したいと思いました。

鳥取大学の他の英語研修に参加してみたいと考えています。同じ鳥取大学の学生と研修に参加することは、研修終了後も仲間にいるとともに、お互い切磋琢磨して英語力を競い合う相手になるのではないかと考えています。今回の同じ研修に参加した仲間には、英語では負けないという気持ちで勉強に励もうと思います。英語を話すのが上手な人に会うことは私にとっていい刺激であり、より頑張ろうという気持ちが出てきます。いろんな研修に参加することを楽しみにしています。



今回の研修に参加して感じたメリットとして特に海外の大学生と触れ合う経験ができた点を挙げます。

わたしが参加した春期マレーシアマラヤ大学英語研修は期間として3週間が与えられています。3週間の海外研修は留学と比べてしまえば短いと感じるかもしれません。実際にわたしも海外の英語の授業を体験してみようといった試験的なスタンスで研修への参加を決定しました。

しかし、実際には想像以上に様々なことを知り、経験できました。研修によって得られた報酬は授業にもありましたが、多くは学生から学ぶことばかりでした。この3週間は日本の学生生活を同じ期間で生活するよりも濃密で、かつ英語のスキルアップとは異なる面での報酬がたくさん得られたと感じています。

わたしが参加したマラヤ大学英語研修はバディ制度があり、一人の日本学生に対して現地のマラヤ大学生が一人つきます。バディと寝食を共にします。そこで感じたこととして、現地学生が何事に対してもポジティブに受け取って後ろ向きにならないことでした。自分自身がポジティブ（前向き、積極的）な考え方をしているおかげで周りの人にも優しく接することができるのかなと思ひ、わたし自身もそのあり方に影響を受けました。反対に、ポジティブな考え方が日本での「常識」とすれ違ってしまうこともありました。

このような考え方や習慣の違いを感じることもありましたが、マラヤ大学の仲間たちとの時間を過ごした中で、それぞれの国の歴史や文化など異なる点は多々ありますが、同じ学生として笑ったり、泣いたり、喜んだりした3週間がそんな違いはあまり関係がないのだと感じました。

今回の海外研修でのマレーシアがわたしの初めての海外でした。これまでは海外と聞くと、何か自分とは疎遠に感じていました。けれども海外に行ってみて分ったこととして、その人のバックグラウンドが自分と大きく違ったとしても分り合えないことは無く、言葉が通じなくても一緒に笑いあえるということです。まだまだ私の英語力は拙いですが、学生生活のうちに様々な国に、学生に会ってみたいと思っています。このマラヤ大学の研修や学生にこのような思いを抱かせてもらいました。今回の研修が本当にわたしにとって貴重で重要な経験になりました。



私はこの研修に参加する前、不安でいっぱいでした。言葉の壁のあるバディと寝食を共にすることができるのか、また1か月という長い期間海外で健康に過ごせるのか。しかし、そんな不安はバディたちと出会い一気に吹き飛びました。彼らは常に私たちのことを気にかけてくれ、また陽気な性格の彼らは私たちを楽しませてくれました。マレーシアで過ごした時間は私の一生の宝物です。

そんな素晴らしいバディたちと過ごす中で私には大きな変化が起きました。出会った当初は全く聞き取れなかった英語が徐々に聞き取れるようになったのです。日本では絶対にありえない英語だけの会話が私のリスニング能力を鍛えてくれました。しかし、私が後悔していることがあります。それは積極的に発言できなかったことです。英語は日本では学習教科の一つとして扱われています。しかし、世界では、英語はただの「ことば」です。私は教科の英語にとらわれ失敗を恐れ積極的に話すことができませんでした。だから私は、これから話す機会があれば積極的に「ことば」としての英語を、失敗を恐れず話していきたいです。

この研修から帰ってきて、私の英語に対するモチベーションが大きく変わりました。今までは、TOEIC である程度の点数を取ることが私の目標でしたが、今の目標は「次バディたちに会うときは、対等に英語でコミュニケーションをとる」です。この目標に向けて日々努力していきたいです。

「Don't be shy. Your life is one time. You never give up speaking English. You can do it」

これは、バディの一人が別れの時にくれた言葉で、私の印象に残った言葉です。マレーシアの人は、イスラム教を信仰している人がほとんどでした。そんななかで彼らは日本人とは大きく違った人生観を持っていました。人生が1度きりなことを日頃から意識し毎日を楽しんでいました。日本人はどうでしょうか？日本人は日々を消化するのに手いっぱい生きることを楽しめていない気がします。そのように文化の違いについても考えさせられるプログラムでした。

最後に、一緒に参加した鳥取大学や他大学のみんな。また、支援してくれた親や同行してくれた先生方。そして、マレーシアのバディたち。本当に素敵な時間をありがとうございました。

私はこの英語研修においてマレーシアのかけがえのない友達を得ることができました。このプログラムに実際に参加するまでは単なる英語の勉強程度に考えていましたが、現地でマラヤ大学の学生とバディを組み3週間で過ごして、英語以外に多くのものを得ることができたと感じています。マラヤ大学というマレーシアで一番歴史ある優秀な大学の生徒達と授業をともにし、プレゼンテーション等の作成を共同で行うなかで、自分たちには思い浮かばないクリエイティブな発想を吸収することができました。彼らのプレゼンテーション力は、人にもよるとは思いますが一般的に日本人よりも上である気がしました。マラヤ大学の生徒達は相手に自分たちの意見や考えを伝えようとする意志が強く、さらにその伝え方も上手です。今後のグローバルな社会の中でこのままでは日本は負けてしまうと感じてしまいました。日本の技術力は確かに世界でもトップレベルであり、実際に海外の人々も日本の製品には多くの信頼を寄せています。しかし、その中でも近年諸外国の製品に後れをとりつつあるのは、自分たちの製品・技術を売り込む力つまりプレゼン力において海外の人々に劣っているからではないかと、今回の研修を経て再度感じました。今後、自身の技術力だけでなく、英語はもちろんプレゼン力を向上させて世界で戦っていきたい、いかなければと思わせてくれる今回の研修となりました。これと平行して、発展途上国の若者たちの向上心とハングリー精神について身をもって体感することができました。今の日本は何もかも充実していて物にあふれています。私達は知らず知らずのうちに現状に満足してしまい、ハングリー精神を失ってしまっているように感じます。それが良いか悪いかは別として。発展途上国の学生達の持つこの向上心は、かつて日本人が自国を敗戦から世界トップレベルの国へと成長させた時に持っていたものであり、現在の日本を作り上げた魂そのものです。しかし、今の日本人にはこの感情は良くも悪くも欠落しており、現状のままでは世界の中で日本は劣勢を強いられるように感じます。今回の研修で得た英語力を今後も磨き続け、ハングリー精神を持って今後のグローバル社会において活躍していきたいと心から思えるようになりました。固いことを述べてきましたが、最初に記した通り共に3週間で過ごし、マラヤ大学そして参加した日本人学生達と出会い友達となれたことが一番の収穫です。これ以上価値のあるものは私にとってありません。出会いは最高です。

友達は最高です。



私は今回の春期マレーシア英語研修で日本では味わえないような経験をたくさんすることができました。それらの体験は私を大きく成長させてくれました。私が成長できたと思う点は大きく分けて三つあります。

まず一つ目は、英語の力が向上したことです。授業で習った文法や語彙はもちろん日常でよく使われる言い回しや表現をバディと共に生活することで自然に使えるようになりました。また、私が特に向上したと思うのはリスニングの力です。最初はバディや先生たちが何を言っているのか全く分からなくて、とても焦りました。しかし、バディたちが私たちに聞き取ってもらえるようにゆっくり話してくれるおかげでだんだんと言いたいことが分かるようになりました。最後には、お互いに冗談を言い合って笑いあえるくらいまで上達しました。正直、三週間でここまで上達するとは思ってなくてとても驚きました。

二つ目は、日本とは異なる文化や宗教について学ぶことができたことです。マレーシアは様々な人種、宗教が混在している国です。そのため、一カ国に行くだけで複数の文化、宗教について学ぶことができました。このプログラムはただ英語を学ぶだけでなく異文化を体験できることが他のプログラムとは違う大きなメリットだと思います。異文化を学ぶことはなかなかできることではないので非常に貴重な体験ができたと思います。

三つ目は、英語や留学について興味を抱けたことです。私は、このプログラムにただ海外に行きたかったから参加しました。しかし、このプログラムのおかげで海外に行って勉強することの有意義さと楽しさを体感することができました。また、自分の話す英語がバディたちに通じた時の喜びはとても大きく、もっと彼らと英語で話したいと思うようになりました。プログラムが終わって数週間経ちますが、私は帰国してからも継続的に英語の勉強に取り組んでいます。今まで英語の勉強なんてテストの前くらいしかしていなかった私にとってはこの英語に対する意識の変化が最も大きな成長だったと思います。

このプログラムで学んだことをこれからの学校生活にも生かしていくために、二回生からは日本語パートナーに取り組んでみようと思います。そこで留学生の人たちとお互いに語学を学びあえたら、私はさらに大きく成長することができると思います。また、日々の英語の勉強もずっと継続していこうと思います。そして、いつかまたマレーシアに行ってバディたちと再会して、自分の成長した英語を聞いてもらうことが僕の夢です。



スピーキングやリスニングといった実践的な英語力といったものがついた気がする。また、文章・段落構成を学んだ。バディと会話するうちに英語でコミュニケーションをとることが楽しくなった。英語をもっと勉強したいと思った。自分が伝えたい内容をどれだけ英語に訳しやすい日本語の文章にできるかが大切だと思った。英語の力だけでなく、日本語力も鍛えることが必要なことだと感じた。

マレーシアの人たちは、自分の意見をしっかりと持っていて、間違えることを恐れず発言していた。私も自信を持ち、意思表示していきたいと思った。また、現地のバディたちは、幅広い知識を持っており、尊敬した。私も、自分の専門分野だけでなく、色々な分野のことを学んでいきたい。

今まで、就職のことを考えたときに海外というキーワードはなかったが、海外の人々に関わる仕事も面白そうだなと感じた。

人とコミュニケーションを取ることが苦手で、何かにチャレンジするということをあまりしてこなかった。しかし、何事も最初は不安だが、最後には達成感が得られると考え、何事にも積極的に取り組んでいきたい。

日本とマレーシアを比べる中で、日本の良いところや悪いところなど色々な発見があり、とてもいい経験になった。違いを楽しむことが出来た部分や難しいところもあった。

私は、人に話しかけられるのを待ってしまっていたが、これからは自分から声をかけて、コミュニケーションを楽しみたい。

笑顔でいることやあいさつをすることは当たり前のことだが、今回の研修でより大切なものだと感じた。心掛けてするようにしていきたい。

自分と全く異なる環境で育った人と会話することは、とても楽しかった。海外の人と関われる日本語パートナーをしてみたいと思った。もう一度、大学の英語研修にも参加したい。バディたちは、本当に優しく、陽気で毎日がとても楽しかった。嫌なことにも楽しみながら取り組んでいた。私も見習いたいと思った。



今回、このプログラムに参加したことが私にとって初めての海外でした。私は英語の教員免許取得を希望しており、このプログラムに参加した理由は自分の英語力の向上のためでした。初めての海外ということで、見たものや感じたものは初めてのものばかりで毎日が新鮮でした。スケジュールは忙しいと感じましたが、多くの観光地に連れていってもらったことで、同じ国ですがそれぞれの人種や宗教の違いを見て理解することができ、マレーシアならではの多文化を直に感じることができました。特に、日本は宗教に対して熱心な人はあまりいないし、自分の周りに宗教の信仰が篤い人がいなかったのも、バディやルームメイトの現地の人々が実際にお祈りをしているところを見たり、お祈りの際にどのようなことを考えているのか等を聞くことができ、異文化についての捉え方をさらに深めることができたと思います。現地での生活は日本とは異なるので、不安が多かったですが、寮の近くには日本製品も扱っていたり、現地の人々は食べ物など日本人を非常に気遣ってくれていたのも、生活に関してあまり不便を感じることはありませんでした。また、現地の人との共同生活によって、英語とふれる機会を多く得られたので、その点に関してこのプログラムに参加してよかった点であると感じました。さらに、英語について、毎日英語にふれるという機会が今まで生活ではできなかったことなので、相手が言いたいことや自分が言いたいことを言語化することに対して、非常に難しさを感じました。しかし、現地の人々はいつも私が言いたいことを理解しようとしてくれたので、今後は、今回プログラムに参加してできた海外の友人や日本にいる外国の人と英語でコミュニケーションがとる際に、よりスムーズに様々な会話ができるように英語を学びたいと思いました。今回のプログラムへの参加は楽しいことばかりではありませんでしたが、多くの人との出会いを通して、言語だけではなく、文化など多くの学びを自分に与えてくれたことが、自分にとって一番の成果だと思います。



春期マレーシアマラヤ大学英語研修の感想を述べたいと思う。この研修では授業中ずっと英語なのはもちろんのこと、マレーシアマラヤ大学英語研修の特徴であるバディ制度のおかげで24時間英語漬けの生活を送ることができる。その中では、英語を聞き取り、自分の意見を発信することが重要であった。単語量や文法の知識もちろん必要ではあるが、それだけでは到底やっていけない研修であった。教科書レベルの表現しか知らない状態で、日常的に英語を話す人達の英語表現、聞きなれないマレーシア英語に戸惑いっぱなしの3週間だった。日本にいる間にせめて、基礎的な勉強をしっかりとしてから行くべきだったと思った。語学力の面でも自分の勉強不足を感じたが、それ以上に自分の意見を持ってないことへの勉強不足を強く実感した。議題に対して、即座に自分の考えをまとめて発信するというのは、英語に限らずこれから必ず必要になってくる能力である。それにもかかわらず、まずその意見を思いつかないことに焦りを感じた。英語力以前にまずその能力向上を目標としたい。知識を蓄え、発信できる機会を逃さないようにしていきたい。

語学面以外での経験についても述べたいと思う。マレーシアは多国籍・多文化・多宗教の国で、日本にはできないような経験ができた。街中で様々な人種が行きかい、様々な言語が飛び交い、各々の文化や宗教を尊重した生活を送っていた。特に宗教の面では、日本ではあまり見られない生活で、最初は戸惑うこともあったが、宗教について興味を持ったり、理解を深めるよいきっかけになると思う。私からすれば、マレーシアの学生は英語がとても流暢であるにもかかわらず、さらに普段から英語の勉強も欠かさず行っており、大変勉強熱心だと思う。彼らを見習いたい。そして発言に積極的でとても社交的だった。距離感に困惑することもあったが、とても親切で満足に返答できない自分の語学力が残念でならなかったし、積極的になれなかったことを申し訳なく思う。

この経験を早いうちにできてよかったと思う。課題もたくさん見つかったのでこれから頑張っていきたい。



最初は、バディが言っていることもよく理解できず、とりあえず笑っていることが多かった。しかし、マレーシアに行って2日目に、マレーシアのバディの1人が、自分も最初は全然英語が話せなかった経験について聞かせてくれて、自分も下手でもいいから英語を話す勇気が湧いてきた。そして、1週間も経つと英語を聞くことに慣れてきて、話の内容によって表情や相槌を変えることができるようになった。難しかったのが文法の授業で、日本語の説明でも理解があやふやな内容を英語の説明で理解して問題を解くということはとても良い経験となった。スピーキングの授業では、プラスイメージの複数の単語の微妙な意味やニュアンスの違いがあることを知り、それは英辞書を使って調べられるということがわかった。ライティングの授業では、文章の構成について学び、英文だけでなく日本語の文章を書いたり、話す時などにも、読み手聞き手が理解しやすい文章になるような構成を作ろうと思った。

私は今回が初めての海外で、日本を出るときは海外に行って違う世界を体験してみたい気持ちしかなかった。しかし、実際に行ってそこで生活して現地の人とふれ合うと、日本にいるときよりも人と人との繋がりや人の気持ちや心の大切さが実感できた。さらに、マレーシアには様々な背景を持つ人がいて、それぞれの文化や宗教をお互いに理解して共に生活しているということがわかった。また、違う国の友達ができ、その人といろいろな話をする事で違う文化や宗教について詳しく知ることができ、自分の世界が広がった。

派遣先のマレーシアは日本と同じく英語が母国語ではないので、英語を教えてもらうばかりではなく一緒に英語を勉強する場面もあって、英語の学習方法などを聞くことができた。さらに、マレーシアの学生も母国語ではない英語を頑張って勉強して話せるようになったのだということを知り、自分もマレーシアのみんなのように英語が話せるようになりたいと強く思い、英語学習へのモチベーションをあげることができた。

今回、マレーシアのバディと様々な内容の話をする事で、英語だけでなく人の気持ちなど、こころとこころのつながりの大切さを学ぶことができた。今までの自分の考え方はこどものように自分中心だということに気付かせてくれ、言語や文化、宗教が違って、心の中で大切にすべき考え方などは同じだなと感じることができた。



春期アメリカ英語研修

国・地域：アメリカ合衆国

研修機関：アーカンソー大学

参加者数：12名（内3名鳥取大学の学生）

期間：2016年2月20日（土）～3月13日（日）

担当教員：国際交流センター 准教授 DAGNACHEW AKLOG YIHUN

担当職員：国際交流課 課員 浦木 智恵

プログラム内容:鳥根大学と大学間協定を締結しているアメリカ合衆国アーカンソー大学にて実施しています。鳥取大学と鳥根大学の学生のためのプログラムです。アーカンソー大学英語学習センター（Spring International Language Center）での授業（英会話・文法・発音練習）だけでなく、リーダーシップワークショップやアーカンソー大学教員の講演会等も受講できます。ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然の中での野外活動等、様々な体験を通して、実践的な生きた英語を学ぶプログラムとなっています。



私がこの英語研修プログラムを知ったのは大学内に張り出されていた海外派遣参加者募集のチラシを見た時でした。しかし、最初にこのプログラムに応募した時は英語力を向上させたいという気持ちよりも大学在学中に海外に行っておきたいという気持ちのほうが大きかったです。これから先サークルも学業もこれまで以上に忙しくなってまとまった時間が取れるのも一年の今のうちしかないだろう、そんな思いも後押しして参加することを決めました。アメリカで英語以外に何を学びたいのか、そんなことすら曖昧なまま私は渡米しました。

研修中は日本ではできない貴重な体験をたくさん経験することができました。大学の授業ではリーダーシップの授業としてリーダーとは何か、リーダーにはどんな要素が必要なのかについて自分で考えたり他人の意見を聞いたりしてお互いに刺激を受けつつ自分の考えを深めることができました。最終的には自分のモットーと将来のゴールについてプレゼンテーションを行い、自分の将来や日々の目標をより明確に描くことが出来るようになったと思います。授業外の活動では生徒同士でファイアットビルの町を散策したり、それぞれのカンバセーションパートナーと出かけたりしました。授業の一環でカンバセーションパートナーにはいくつかの質問（もしあなたが世界の何か一つを変えられるとしたら何を変えたいか、など）をしたのですが同じ大学生とは思えない視野の広い返答にショックを受けたりもしました。ホームステイ先の家族もアメリカの文化や日常生活で使うような英語を教えてください、出会う人すべてが先生だと感じられるような学ぶことの多い三週間を送る事ができたと思います。

今回のアメリカ研修は、私にとって実りのあるものになりました。人の意見を聞き自分の意見を伝えることを繰り返したことでもっともっと知らないことを学びたいという思いが強くなり、また自分の周りにいる人や、その人たちが与えてくれる機会や体験はとても大切なものだったのだと再認識できました。私がアメリカに滞在した期間はほんのわずかでしたが、その間に学んだことをもっと育てよりよい学生生活を送りたいです。



研修に参加して、自分の積極性が少し上がったと感じます。アメリカでの授業は、誰かがあてられて発言するのではなく、学生が自然と発言し、授業が成立していたので、自分から発言すると、より授業に参加できるようになっていました。日本では、間違えるのが怖い、といった理由で授業に参加しようとはしていませんでした。しかし、アメリカでの英語の学習では、全員が英語の学習者で、間違えるのは当然だ、と先生がいつも言うてくださり、間違えることを恐れることなく、積極的に授業やアクティビティに参加することが出来ました。また、英語でアメリカの方と会話をする際も、少し間違った英語を話しても、私が何を伝えようとしているのか理解してくれようとしてくれました。アメリカの方のフレンドリーさや、やさしさのおかげで、授業以外の場面でも間違いを恐れることなく英語を学ぶことが出来ました。

この研修に参加してもっともよかったと感じることは、たくさんの人と出会えたことです。この研修は島根大学との合同の研修でしたが、なかなか交流することのない、他大学の学生や、研修先で出会ったアメリカの人などとお会いすることが出来ました。研修で、同年代のアーカンソー大学の学生と会話をする場面がありましたが、アメリカの学生がどんなことを考えているのか、アメリカの大学はどんな感じなのかということを知ることが出来ました。今回の研修で出会った人とは、今後も交流を深めていきたいと考えています。

私がこの研修に参加しようと思ったのは、日本で学習してきた英語がどれだけ通じるか知りたかったからです。アメリカに行く前は、3週間という期間をすごく長いと感じ、ちゃんと無事に帰れるか、不安でいっぱいでした。ですが、始めてみると、3週間はあっという間に過ぎ、毎日充実感でいっぱいでした。

自分の国以外の人と交流する楽しみを知って、違う国にも行ってみたいくなりました。この研修を機に、日本での英語の学習をもっと頑張ろうと思うことが出来ました。



この研修に参加するのは、自分にとって大きな決断でした。英語が嫌いというわけではなく、むしろ得意に思っているほうでした。以前から海外研修に参加してみたいと思っていたけれども中々勇気が出せなくて、そんな自分を変えたいと思ってこの研修に申し込みました。研修が始まってすぐに参加してよかったなと思いました。もう毎日がめちゃくちゃ楽しかったです。ほぼ毎日何かしらのアクティビティが用意されていて充実した日々を過ごせました。充実していたのはアクティビティだけでなく、授業もまた日本では受けることができなかったような面白い授業でした。朝の授業は8:30からはじまり、授業の初めには前回の復習も兼ねたミニゲームをして、ときには授業には関係ないただの遊びでしたが、僕たちの授業意欲をださしてくれました。そもそも先生が先生というよりは英語を教えてくれる友達のような感じだったので、授業中でも分からないことは気軽に聞けたし、なにより、積極的に発言するようになりました。火曜の午後にはリーダーシップについて学ぶ授業があり、日本に帰った後にも役に立ちそうな様々なことを教わりました。アメリカで生活していて、普段生活していてよく使いそうな言葉が案外分からないことが多々あったのでこれからも英語を毎日勉強していこうと思いました

アーカンソーで僕が気に入ったのは気候と自然です、毎日がお散歩日和みたいな天気でした。州立公園に行ったのはとてもいい思い出になりました。洞窟に入ってほとんど壁みたいな岩をよじ登って狭いところを這いつくばって進んだりしたのは初めてのたいげんで、泥だらけにはなりましたが、とてもたのしかったです。この研修で異文化交流の楽しさを知りました。僕たち以外にもサウジアラビア、韓国、ベトナム、中国など様々な国から留学している生徒がいたので、昼休みにはその人たちと一緒にご飯を食べたりしました。この研修を通じて、少しですが自信がついたので、次は三か月のメキシコ留学にチャレンジして、語学の向上と農業について学びたいなと思っています。



春期オーストラリア英語研修

国・地域：オーストラリア

研修機関：アデレード大学

参加者数：6名

期間：2016年2月12日（金）～3月20日（日）

担当教員：国際交流センター 教授 安藤 孝之

教育センター 助教 滝波 稚子

担当職員：国際交流課 岸田 佳子

プログラム内容：アデレード大学は、オーストラリアで3番目に古い大学で、いままでに5名のノーベル賞受賞者を輩出するなど、オーストラリア屈指の学術研究機関です。本研修では、アデレード大学 General English Academic Program に参加し、英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングスキルの向上を目指します。大学周辺には、オーストラリアの歴史や文化、自然に関する博物館や、アートギャラリー、植物園、動物園があり、オーストラリア文化、歴史や自然について知見を深めることができます。また、オーストラリア人家庭でのホームステイを通じて、ホストファミリーからオーストラリアの日常や習慣を学べます。



オーストラリア英語研修に参加してみた。

僕にとって初めてのホームステイ経験となる5週間でした。行く前は、ホストファミリーとうまくやっていけるのだろうか、ご飯は合うのだろうか、オージーイングリッシュを理解できるのかなど様々な不安がありました。5週間という期間も鳥取大学の語学研修の中では、長いのでその分現地での生活が合わなかった時でも5週間は頑張らないといけないのかもしれないなどと考えていましたが、結果として全く逆でした。ホストファミリーは優しいし、ご飯は美味しい、英語も毎日の生活の中で少しずつ理解していくことができました。また、寮で生活するのと違いホストファミリーの家族の一員として過ごすことになるので、自分で洗濯、皿洗い、時には料理なども手伝いながら生活したのはとても貴重な経験となったと思います。人と話す時はもちろんそうなのですが、例えば、バスに乗っている時や、家でぼーっとテレビを見ている時でさえも周りから自然と英語が入ってくるので生活すること自体が英語の勉強に繋がるのを感じました。また現地の大学生とも友達になれたので一緒に遊んだり、日本食レストランに行ったりしました。また、自分達で計画を立てていろいろな観光名所を巡り、道が分からなかった時は、現地の人に聞いてたどり着くことができました。自分達で飛行機とホテルを予約し、シドニーに行った時はなんともいえない達成感がありました。

オーストラリアでしか学べないことも有りますが、友達ができたので日本に帰った今でも時々メッセージのやり取りをして英語を学ぶ機会が有ります。ただ英語を学んだだけでなく、人間としても成長できたと本当に感じています。もちろん全てが上手くいったとは言えませんがそれでもなんとか自分のベストを尽くせたと思います。

僕にとってオーストラリアでの5週間はあっという間でしたが、現地で学んだことや感じたことを日本に帰ってからも忘れずにそれを生かして英語の勉強を頑張りたいと考えています。





今回語学研修に参加して、沢山の貴重な体験をすることができました。私はこれまで一度も海外に行ったことがなく、飛行機にも乗ったことがなく、もちろん留学経験もなく、と今まで体験したことのないことばかりをこの留学で経験しました。そもそも私が留学しようと思ったのは、英語能力を上げたいというのはもちろん、日本以外で生活して、日本人とは違う外国人と関わり、外国の文化に触れ、それらを自分なりに吸収して、これまでの自分から変わりたいと思ったからです。オーストラリアでは、一歩外に出れば世界中の様々な国のルーツを持つ人々に会い、オーストラリアは多民族国家だということを実際に肌で感じました。聞こえてくる言語はやはり英語が多いですが、中国語やアボリジニの人々の言語、フィリピン語やドイツ語など多様性に富んでいました。日本で暮らしていれば、周りにいるのはほとんど日本人で、日本語ばかりで溢れています。そういった環境からオーストラリアのような多民族国家を訪れたというだけで、これまでの生活とは全く異なりました。色々な民族がいる、ということは、日本人の私が珍しがられることもなく、自然体で生活することを可能にしたと思います。また、オーストラリアは本当に皆フレンドリーで優しい人ばかりでした。学校からホストファミリーの家からはバスで三十分ほどかけて通学していたのですが、お年寄りや小さい子どもが座れない時はすぐに誰かが席を譲ってあげて、それが当たり前のような感じでした。また街中では少しでも相手の進む進路を邪魔したと思えば、すぐに”Sorry”と謝るのがオーストラリアでは普通です。もしくは邪魔しそうな時はすぐに”Excuse me”と言って通ります。日本に帰ってこういったことがなかったのも、私は逆にカルチャーショックを受けてしまいました。それくらいオーストラリアの国民性がとても好きになりました。これがまた住みやすい所だと私に思わせたのかもしれません。



オーストラリアに前々から留学したいと考えていたので、今回参加することにしましたが、本当に参加してよかったと思うほどオーストラリアは良い国でした。次は長期留学をオーストラリアでしようと考えています。今回の留学は5週間ととても短いものでしたが得られた経験は貴重な経験ばかりです。英語が聞き取れなかったり離せなかったりと悔しい思いも沢山したので、次の長期留学に向けてこの思いを糧に、英語学習を続けていきたいと思っています。

春名 勇佑 地域学部地域文化学科 (2014年度入学)

春期オーストラリア英語研修でアデレードに滞在し、学ぶ事がかなり多かったように感じる。私にとっての初めての海外経験であったというのも一つの理由だが、それ以上に、今回のプログラムの内容が非常に充実していたということが、この研修が私にとって有意義なものになった理由である。

私は将来英語教師を目指しているので、研修以前から日本で英語の勉強を続けていた。しかし、実際に英語を使って話す機会が日本ではあまりなく、日本で学んできた自分の英語が海外でどこまで通用するのか、という不安を研修前に抱えていた。しかし、研修中の学校やホームステイ先でネイティブスピーカーと会話をする中で、自分がちゃんと相手と意思疎通が出来ているということに気付き、日本で長年学んできた英語が間違いではなかったということに気付くことが出来た。そしてそれは自分の英語への自信にも繋がり、もっと英語を使ってコミュニケーションをとりたいという意欲を持つことが出来た。英語力を高めるという点において、この研修で得るものはかなり多かった。

英語だけでなく、異文化理解の点においても、この研修でたくさんの事を学んだ。特に、ホームステイ先でのホストファミリーとの生活の中では、オーストラリアの草の根レベルの文化を体験することが出来た。もちろん、日本ではありえないような文化を垣間見ることもあり、カルチャーショックを受けたこともあるが、それも異文化を学ぶためにとっても良い経験になったと思う。また、なんといってもオーストラリアは移民の国であり、人々は多様な国からのバックグラウンドを持っているので、たくさんの異文化に触れることが出来るというのも、オーストラリアの面白いところだと思う。そんな国で研修を受け、異文化を理解し受け入れる心を育むことが出来たのではないかと感じる。

もちろん、研修で見出した課題もある。英語力は今後も向上させていく必要があるし、もっとたくさんの国の文化を経験するのも英語教師にとって大切なことかもしれない。しかし、今回の研修で得た経験は将来の自分に少なからず影響を与えるに違いないと思っている。それほど、たくさんの事を学び、経験し、考えさせられた5週間であった。この経験をどう活かすことが出来るかは、これからの自分次第であるが、ひとまず、この研修に参加して本当に良かったと思っている。



私は初めて海外へ行きました。前から行きたかったのですがなかなか機会がなく今回が 1 回目でした。そのため、とても不安でドキドキしていましたが、空港で先生やホストファミリーが暖かく出迎えてくれとても嬉しかったです。授業はもちろんすべて英語です。私のクラスの半数が日本人でもう半数が違う国からの留学生でした。例えば、タイ、スリランカ、カンボジア



といった国から来ているクラスメイトと一緒に授業を受けました。彼らはとても積極的でよく質問をしたり自分の考えを言ったりしていました。私（日本人）はあまり発言しないのでとても驚き、すごいなと思いました。また、先生も明るく毎日笑顔でとても優しい方ばかりでした。1 日 4 時間、授業がありましたが、ゲームをしたり歌を歌ったり、楽しく勉強することが出来ました。ホームステイもとてもいい経験になりました。学校から帰るとホストファミリーと一緒に晩ご飯を食べながら今日あったことなど話したり、テレビを見たりと楽しい時を過ごしました。私はホストファミリーに連れられてドルフィンクルージングへ行きました。3 時間ほどありボートの中では音楽バンドの方が演奏していて、踊っている人もいました。私たちはボートのすぐ横をイルカが泳いでいるのを見ることが出来ました。私は野生のイルカを初めて見たのでとても嬉しかったです。これはホストファミリーとの 1 番の思い出です。友達とは市内で買い物をしたり観光をしたり海へ行ったりしました。お店は平日だと 17 : 30 くらいに閉店してしまうので授業が終わってからだと 1 時間しかありません。それが少し残念でした。ビーチはとてもきれいで、何度行っても見とれてしまいます。私は 4 回くらい行きました。鳥取大学からは 6 人しか参加していなくて、他の大学と比べると小さいグループでしたがお互い仲良くなれて 3 連休にはみんなで行ける旅行に行けてとても嬉しかったです。これを機にいろいろな地域へ行ってみたいと思います。

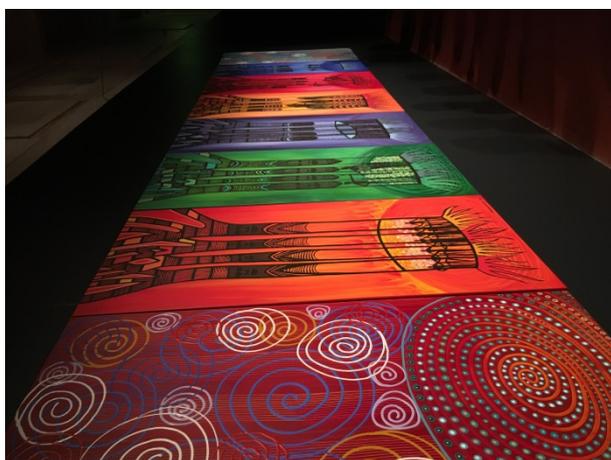


多田 慎人 工学部土木工学科 (2014年度入学)

今回のオーストラリアの海外留学は自分の人生の中で初めてのことでした。研修前は不安が大きくすべてが手探りの状態でした。留学ということに関しては行った人から何度かガイダンスを通して概要などを聞いたりしていましたがやはり百聞は一見に如かずというように聞くだけでは人として変わることは難しいと感じました。そしていざ留学してからは、最初は慣れないことだらけで戸惑いや不安がありましたが、いくら日本の常識でも通じないことは通じないとわかり、オーストラリアにいるならオーストラリア人になりきろうと考えてか

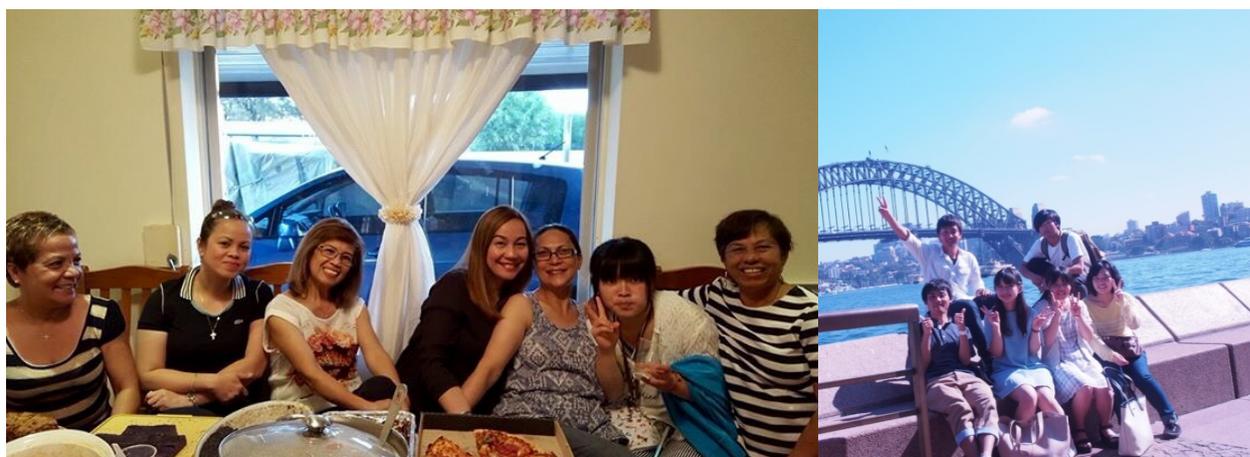


らは順調に自分のペースを掴み円滑に楽しく生活できました。今まで日本の中で生きてきて外の世界に出ることがなかった自分にとっては目に入るすべてのものが新鮮で刺激的な物でした。自分が行った Adelaide は Art の街で自分は絵や雑貨が好きなので街を歩くだけで自分のセンスが磨かれました。またオーストラリアの人々やホストファミリーはフレンドリーですべてが英語でしたが同じ人間なので必死に伝えようとすれば何とか伝わるということもわかりコミュニケーション力も向上したと感じました。私のホストファミリーはフィリピン人でとても心配症でまた英語も癖がありましたがファミリーとは仲良く生活できたと感じます。日本へ帰ってきていざ何が大きく、人として変わったかと言われると答えることはできませんが、これから日本で長く生活する上で少しずつですが変わっていきそうな気がします。そして帰ってきて感じることは、一か月だけだと確実に少ないと感じました。この短期間では自分が大きく変わりそう…の手前にといいかスタート地点にやっと立てた感じです。また今回の研修で自分の英語力のなさ、積極性のなさ、弱さなど改めて感じる部分が多くあり、その部分はこれからの生活で直していかなければならない点だと思いました。これからの目標としては今まで以上に海外に行きこれからも海外の文化、習慣に触れ人として大きくなっていくことを期待しています。



私は、一度は留学しておくべきという気持ちでこの研修を受けました。出不精な私にとっては、これは大きな決断でした。しかし英語能力には自信がなかったため、現地の人とのコミュニケーションはおろか、日常会話すらできるか不安でした。さらに、ホームステイ先がどのような家庭環境か、雑に扱われないか、ということも、不安材料のひとつでした。しかしいざ行ってみると、ホームステイ先は何人も留学生を受け入れており、とても手慣れた対応で、英語もわかりやすいようにゆっくり話してくれました。特にその家庭の息子が私と同年で、日本のゲームやアニメが好きだったため、とても話が盛り上がりました。また、街中でも、片言な英語でも意外と通じ、店員さんと簡単な会話を交わすことさえできました。安全面では、最初は日本ほどの安全な国はほかにはないと信じていたため、他国に行くことは恐怖ですらありましたが、オーストラリアのアデレードはとても安全な都市で、日本と同じくらい安心してすごすことができました。こういったことも、直接現地に行かなければ誤解したままであったと思います。

日本と違い、質問に対して曖昧な返事は好まれないだろうと思い、せめて留学中はと、自分の気持ちをはっきり言うことを心がけました。5週間という短い滞在期間でしたが、その心がけのおかげで、自分の意見をはっきり持つことができるようになりました。例えば、サークル内で、少しずつではありますが、以前よりも意見を言うようになりました。また、この留学を通して、英語を学ぶことの大切さに気付きました。英語を話せるということは、日本人以外のもっと多くの外国人と話せるようになり、他国の人が持つ独特の価値観や考え方を共有できる。すると自己の視野が広がり、今までとは違った意見や考えを持つことができます。私自身、パーティや大学の人と話し、その考え方の違いに驚かされました。今まで留学は面倒なものと思っていましたが、得るものはとても大きかったです。大学生は出不精になる人が多いと思います。ですから、一度は留学することをオススメします。空き時間が多い大学生だからこそできることを、率先してやっておくと後で後悔しませんし、出不精を治す良い機会にもなります。



## 大山短期集中英語研修

国・地域：日本

研修機関：大山共同利用研修所

参加者数：6名

期間：2016年3月22日（火）～3月27日（日）

担当教員：BROOKS MICHAEL SCOTT

担当コーディネーター：グローバル人材育成推進室 特命コーディネーター 関野 元

プログラム内容：本学英語講師による英語の実践能力（会話力、ディベート力、聴解力、プレゼンテーション能力）の向上を目指した集中合宿を行います。授業は英語で進められ、国際的なトピックを扱うことで、国際理解力やグローバルな価値観を養うことができます。外国人留学生等がTAとして参加し、参加者の英語学習をきめ細やかにサポートします。途中で、大山寺やみるくの里のフィールドトリップ（課外学習）に参加します。



宮地 可奈 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

今回私がこの研修に参加した目的は主に3つある。一つ目は英語のスピーキング能力向上のため、二つ目は海外志向や英語に対して高い意識を持つ人と出会うため、三つめは留学生の友達を作るためである。お手ごろな価格で英語を話す機会が得られ、すごい人たちに出会い、友達ができるこの研修は大変魅力的であった。

この研修では、英語を話すことの抵抗意識を大幅に減らすことができた。英語を話す際には、「もし自分の英語が伝わらなかったらどうしよう」「もしうまく英語で表現できずに会話が続かなくなってしまったらどうしよう」といった不安が少なからずあるが、英語を話せるようになりたいもの同士であるので気楽に英語を話せた。ここから学んだことは、失敗を恐れないことである。英語は話してみると意外と通じるし、伝えようとする気持ちが大切だと思う。英語を話すことだけに限らず、何かができるか不安な時や自信がない時に、私を含め多くの日本人は失敗を恐れ諦めたりやめたりすることが多くある。チャレンジ精神はいかなるときも大切であるのだと感じた。

研修を通して、新たに仲間もできた。大学生活を普通に送っていれば誰が海外に興味を持ち誰が英語に高い意識を持っているのかはわからないし、そのような友達は見つけるのが大変である。しかし、このような研修に参加すれば自分と同じように何らかの想いを持っている人たちを簡単に見つけることができる。今回の研修に参加したメンバーの中でも海外に行ったことのある人や、将来は海外に何らかの形で関わる仕事をしたいと言う人に出会えた。ここで出会ったメンバー皆の話は自身にとって刺激になり、これからの学生生活をどのように過ごしていくのかについても前向きに積極的に行動していこうと思えた。また、今回の研修に TA さんとして参加して下さった2人の留学生とも友達になることができた。宗教の話について聞いたり、それぞれの母国の話を聞いたりする中でグローバル人材になりたいという思いが強くなったと共に、世界の常識や宗教についてほとんど知らないということに気付かされた。

私は4月から3回生であり、大学生活も折り返しとなる。今後は大学内で日本語パートナーや国際交流行事に参加するなどして異文化についての理解を深めながら留学生の友達を増やしていきたいと考えている。自分の専門分野の勉強も忙しくなるが、英語の勉強は怠らず続けていこうと決めた。



今回、2015 年度春期大山短期集中英語研修に参加して、英語やグローバル社会に対する自分の意識を多少改善することができたと思う。急速にボーダレス化する社会において他文化の理解や母国語以外の言語で他者とコミュニケーションが取れる能力が必要となってきたことを改めて痛感した。研修の中では、特に TA の方々との会話と妻木晩田遺跡の見学が印象に残っている。TA の方々との会話を通して英語のみならず、より様々なことをより深く勉強していかなければならないと思った。また妻木晩田遺跡の見学は元々歴史に興味があったため、ガイドの方の説明をとっても興味深く聞くことができた。研修中に先生や TA の方々のプレゼンを聞く機会が何度かあったが、見学で得た知識も含めていずれ日本の文化や歴史について外国の人々にプレゼンできるようになりたいと感じた。より日本について知るとともにそれを伝えられる英語力をつけていくために毎日少しずつでも英語に触れる時間を意識して作ることを考えている。具体的には研修中に行ったように英文(新聞や雑誌、論文)に目を通す、英語のニュースを聞いたり(ABC ニュースシャワーなどを活用して)、映画を観賞したりするなどである。自分の性格上、喉元過ぎれば熱さを忘れてしまうところが無きにしも非ずではあるが、初心、また今回新たに抱いた思いにかえり、これからはしっかりと取り組んでいきたい。さらに英語だけでなく他の言語の習得も合わせてやっていきたい。大学 2 年までフランス語の必修・選択科目を履修しており、加えて自分が今後取り組んでいきたい分野ではフランス語ができると良いと聞いたので上手に並行して自分のものにしていくことを考えている。フランス語の影響を受けた英語も存在すると思うので辞書を引いて比較しながら楽しみながら勉強していきたい。今回の研修をきっかけに実生活でも英語に触れる機会を増やし、菌類の世界を深く知り得た知見を発信していくためのツールを手に入れるために、さらに自分自身を磨いていく所存である。



私にとってこの5泊6日はとても充実した日々でした。日本国内にいながら毎日の生活の中で英語しか使えないことは今までに経験したことがありませんでした。なので、学ぶこともたくさんあり、時にはストレスを感じることもありました。研修は、授業以外に精進料理を食べに行くこと、妻木晩田遺跡の見学など様々な大山の歴史を体験することができました。その中で私が一番心に残っていることは、自分の国の文化を世界に発信していくことの難しさです。これは最終プレゼンのテーマにもつながっていました。

まずはTAさんがインドネシアとナイジェリアの食文化を説明してくださりました。言葉で説明されてもどんな料理かわからず、写真を見てもなかなかイメージとは一致できませんでした。その国に実際に行った経験がないと難しかったです。続いて私が日本の食文化についてのプレゼンを作成しているとき、自分にとって食べなれているものでも改めて一から説明し、よりの確な表現を用いるのは容易ではありませんでした。日本人同士なら例えを用いやすいですが、外国人にはその例えがうまく理解してもらえません。異文化理解は重要であることを痛感しました。また、私にとってこの研修で出会った友達や留学生は、普段の友達とは違う素敵な仲間だと思いました。今後はもっといろいろな経験や考えを持つ人に出会えるよう、また出会った人とのその後のつながりを大切にしていきたいです。

これからグローバル化が進むにつれて、そして自分が海外に行く機会には日本の文化を他の国の人々に説明する機会があると思います。その時に今回よりも、もっと的確で聞いている人に伝わりやすいプレゼンをしたいと強く思いました。そのためには、英語の語学力を身につけるのはもちろん、他と比べた時の日本の良さ、日本独特の文化や習慣に目を向けられるようになりたいです。この春休みの経験を生かして次の留学という目標に向け頑張っていきたいです。



この研修を参加して、まずは生活リズムが変わりました。参加する前にちょうど春休みで生活リズムが崩れて毎日夜更かししていました。研修の間で毎日規定の時間で寝て、朝起きます。食事でもバランスよく取れました。夜授業が終わったら自習の時間もあって、その時は日記を書いたり、英語の本を読んだりすることはできます。今回ははじめて英語の本を読みましたが、ちょっと難しく読むのに時間をかかってしまいましたが、最後まで読み終わって達成感がすごく出ました。

そして、英語を勉強するいい習慣を身に着けました。例えば毎日 20 個単語を覚えること、今後も続けてやりたいです。たまに先生は私たちを連れて自然の中で歩きながら、目の前の物の英語の呼び方をおしえくれたり、食事する時もアメリカの食事マナーを学んだりしました。本当に身近に使えるような英語ですから、学んだらすぐに使えてうれしいです。英語で日記を書くこともいい習慣になりました。一日を振り返って単語を調べながら書いていますが、やっぱり続けていけたら、書く能力が上がると感じます。一番重要なのは、英語ゾーンで英語しか話せないというルールです。これで英語の環境を作って、英語を毎日いっぱい話して知らず知らずに生活用語が覚えられました。

また、英語の勉強以外にも、日本の歴史や文化などの体験もありました。この研修の中で、はじめて日本の精進料理を食べました。その料理の英語の説明もできました。鳥取にある弥生時代の日本人がどんな生活をしていたか、どのような部屋に住んでいたかも見学しました。合宿ですので、友達も作れました。一緒においしいものを食べて、自然の中で遊んで仲良くしました。最後に英語で日本の伝統的の食文化紹介するプレゼンテーションをやりました。英語のプレゼンテーションも初めてですので、そして準備する時間も短かったのですが、途中でできるかなと自分を疑っていましたが、TA が手伝って、何回もチェックしてもらったので、本番の時は順調に発表できました。

この研修の中でたくさん初めてやりことができました。英語の勉強以外に、人間力も鍛えられました。とても有意義でした。



弥生時代の部屋



楽しくご飯を食べます

## 付属資料

ランチタイムワールドカフェの広報ポスター

鳥取：共通教育棟1階 語学シャワー一室  
米子：総合教育棟2階 第2共用会議室

# Lunch Time World Café

台湾  
銘傳大學英語研修

6/7(Tue)

12:10~



# Lunch Time World Café

マレーシア春季英語研修



私たちの研修体験を直接お話し  
します。ここで、一緒にマレーシ  
ア研修の気分に浸りませんか？



## 日時

4月26日(火) 12:10~12:50

## 場所

- ・鳥取キャンパス  
共通教育棟 語学シャワー室
- ・米子キャンパス  
総合教育棟2階 第2共用会議室

# ★ 春期アメリカ研修 ★

★ ~Lunch Time★ World Cafe ~

★ 参加者の  
★ 生の声が  
★ 聞ける

★ 5/17 Tue ★

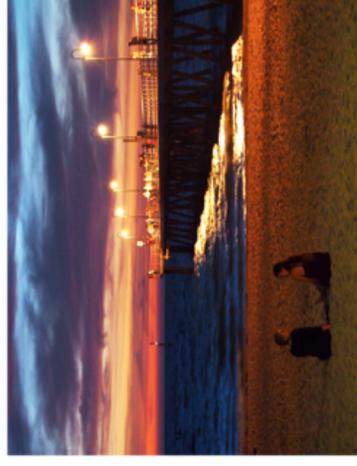
★ 12:10 ~ 12:50 ★

★ ランチ持参  
★ 参加OK



# Lunch Time World Café

～春期オーストラリア英語研修～



12:10～

鳥取：共通教育棟1階 語学シャワー室  
米子：総合教育棟2階 第2共用会議室